

令和6年度 第3回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会

日時	令和6年12月19日（木）午前10時30分
会場	エア・ウォーターアリーナ松本 大会議室

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 会議事項

- (1) 地域移行マネジメント支援の業務報告について
- (2) 令和6年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題への対応状況
- (3) 地域クラブへの送迎について
- (4) 山間地域における地域移行の現状と課題
- (5) 放課後等の子どもたちの居場所づくりについて
- (6) 松本市における部活動の地域クラブ活動への移行に係る調査結果（速報値）について

4 その他

5 閉会

令和6年度 部活動地域移行プロジェクト 体制表

●部活動地域移行検討協議会 9名（年4回開催）

役職	職名	氏名
会 長	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科准教授	新井 喜代加
副会長	市スポーツ協会事務局長	横内 俊哉
委 員	中学校長会代表（丸ノ内中学校長）	宮下 昌史
	中学校長会代表（開成中学校長）	中川 由香里
	P T A連合会副会長	常田 光弘
	P T A連合会副会長	小林 珠美
	（株）松本山雅	柄澤 深
	芸術文化振興財団理事長	青山 織人
	公民館長会会長（安原地区公民館長）	藤野 一男

●部活動地域移行検討協議会参加メンバー 19名

役職	職名	氏名
オブザーバー	信州大学教職支援センター准教授、松本市教育顧問	荒井 英治郎
会 員	教育長	伊佐治 裕子
	教育次長	赤羽 志穂
	教育監	坂口 俊樹
	教育政策課長	小西 えみ
	学校教育課長	清沢 卓子
	学校施設担当課長	西澤 弘
	生涯学習課長	廣田 圭男
	文化観光部長	小口 一夫
	文化振興課長	清澤 明子
	スポーツ本部長	大島 良司
	スポーツ事業推進課長	山本 茂
	住民自治局長	逸見 和行
	地域づくりセンター長	勝家 隆
事 務 局	市総括コーディネーター	幅 誠一郎
	指導主事	高山 智史
	課長補佐	降旗 基
	主査	竹内 賢
	主査	千賀 康孝

●協議会ワーキングメンバー 14名

所属課	職名	氏名
学校教育課	課長補佐	横山 盛雄
	係長	堀金 孝志
	主事	篠田 大希
学校支援室	市総括コーディネーター	幅 誠一郎
	指導主事	高山 智史
生涯学習課	係長	上嶋 秀俊
	主査	浅井 勇太
文化振興課	係長	傘木 史仁
	主事	脇谷 絵梨香
スポーツ事業推進課	係長	齋藤 康治
	主事	中島 涼奈
事務局	課長補佐	降旗 基
	主査	竹内 賢
	主査	千賀 康孝

第3回 部活動地域移行検討協議会
2024年12月19日（木）

地域移行マネジメント支援の業務報告について

スポーツデータバンク株式会社

© Sports Data Bank Group

2

報告事項

- 01 まつチャレサポートデスクの対応状況
- 02 サポートデスク成果と課題
- 03 市民説明会の実施
- 04 動画 | 松本市の目指す姿（部活動地域移行の松本モデル）
- 05 情報提供 | 令和8年度以降の方策について（国の取組み）

01 まつチャレサポートデスクの対応状況

© Sports Data Bank Group

4 01 まつチャレサポートデスクの対応状況

● コールセンター対応状況

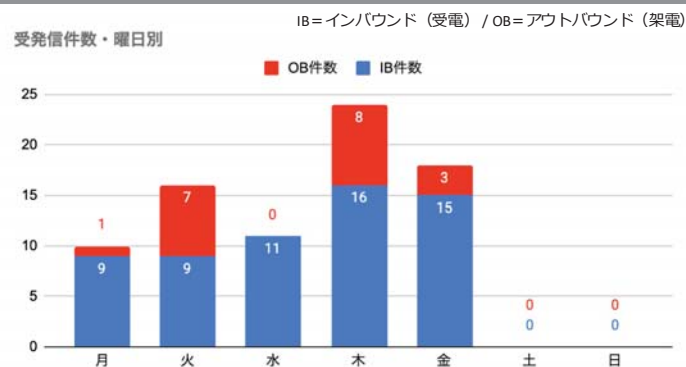
● サマリー

まつチャレサポートデスク電話問合せ ☎ 0120-979-066

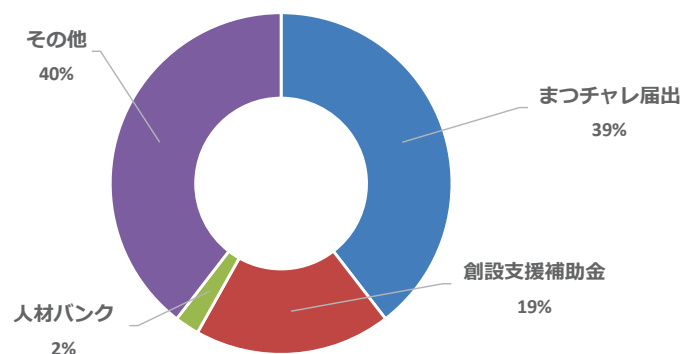
電話対応時間 平日・土日 9:00～17:00 (祝日対応外)

開始日	2024/10/03
期間	2024/12/12
受発信総数	79 (+46)
インバウンド (受電) 総数	60 (+34)
アウトバウンド (家電) 総数	19 (+11)
平均通話時間 (有効分)	0:05:16

受発信件数・日別



問合せ・相談内容 (1名複数内容あり)



© Sports Data Bank Group

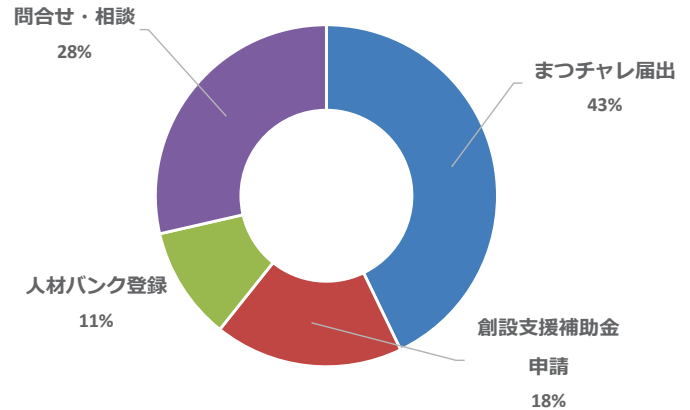
5 01 まつチャレサポートデスクの対応状況

● 各種フォーム対応状況

● サマリー

開始日	2024/09/30
期間	2024/12/12
受付総数	56 (+27)
[受付内訳]	
まつチャレ届出	21 (+9) スポーツ：18 (+8) 文化・芸術：3 (+1)
松本市地域クラブ創設支援補助金申請	12 (+7)
人材バンク登録届出	5 (+2)
お問合せ・ご相談	18 (+9)

各種フォーム受付内訳



人材バンク登録内訳

種目	人数
野球	1
卓球	1
サッカー	1
バレーボール	1
マウンテンバイク	1

© Sports Data Bank Group

6 01 まつチャレサポートデスクの対応状況

● まつチャレー覧の掲載開始（WEBページ）



まつチャレサポートデスクとは
指導者人材バンク登録

まつチャレー覧

まつチャレ届出について

よくある質問（FAQ）

各種
届出・申請

各種
お問合せ・ご相談



まつチャレに関するよくある質問(FAQ)



INFORMATION

- 2024年12月12日 [中学校部活動の地域移行 市民説明会を開催します](#)
- 2024年12月12日 [年末年始営業のお知らせ](#)
- 2024年9月30日 [WEBサイトを公開しました。](#)

まつチャレー覧へ

サービス内容やご利用開始の手順

[まつチャレー覧へ→](#)

まつチャレ サポートデスクとは

7 01 まつチャレサポートデスクの対応状況

● まつチャレー一覧の掲載開始（WEBページ）

まつチャレー一覧	
バスケットボール	詳細を確認する
樟川男子バスケットボールクラブ	種目 バスケットボール 場所 樟川中学校体育館 樟川体育館 代表 二村 喜子 定員 5人程度
バドミントン	詳細を確認する
まつもと城東バドミントンクラブ	種目 バドミントン 場所 本郷小学校体育館 本郷体育館 他 代表 伊藤 恒平 定員 20人程度
バレーボール（女子）	詳細を確認する
VC MAST	種目 バレーボール（女子） 場所 鎌田小学校体育館 鎌田小学校体育館 代表 高山 昭光 定員 50人程度

基本情報

カテゴリ	スポーツ
団体名	まつもと城東バドミントンクラブ
団体名（ふりがな）	まつもとじょうとうぼどみんとくらぶ
代表者名	伊藤 恒平
種目・活動内容	バドミントン
補助金対象	
定員人数（人）	20
大会参加	中体連
主な活動場所（休日）	本郷体育館 他
主な活動場所（平日）	本郷小学校体育館
指導者人数（人）	18
入会金（税抜）	¥6,000
月会費（税抜）	¥6,500
ホームページ・SNS URL	https://matsumoto-joto.jimdofree.com/ ㊟
問合せ・申込み連絡先	akitsu.326@gmail.com

規約・運営方針・活動計画をダウンロード

© Sports Data Bank Group

02 サポートデスク成果と課題

● 成果と課題

	内容		対応・解決策
成果	情報集約と見える化	➡	・ 継続した受付窓口と共有ツールの活用
	まつチャレ届出に必要な申請書類作成例の活用	➡	・ WEB上で「特に多い修正事項」等の掲載
	Q&A の蓄積によるオペレーションの効率化	➡	・ 継続したQ&A更新と対応の均一化
課題	まつチャレ登録数（周知展開の不足・方法の工夫）	➡	・ 市民向け説明会の実施 ・ 市との協力で関係団体等への周知呼びかけ
	指導者人材バンク登録数（周知展開の不足・方法の工夫）	➡	・ 市民向け説明会の実施 ・ 市との協力で関係団体等への周知呼びかけ
	お問合せ・相談内容の個別化と複雑化	➡	・ 市民向け説明会の実施 ・ FAQや情報発信の充実 ・ 個別対応（オンライン含む）者の充実 ・ 情報共有の高速化と効率化

© Sports Data Bank Group

03 市民説明会の実施

● 市民説明会の概要

趣旨	松本市の部活動地域移行の取組について、市民に周知するため説明会を開催する
タイトル	「どうなるの？部活動の地域移行」
日時・会場	① 12/22（日）14：00-15：30 波田公民館 ② 2/1（土）10：00-11：30 庄内地区公民館
対象者	どなたでも （クラブ関係者、保護者（生徒）、地域指導者、企業など）
定員	60名/回
申込方法	市HPで事前申込 ※当日参加も可
内容（予定）	● 地域移行の概要 国の方針と松本市の目指す姿 ● まつチャレの概要 要件、メリット、届出、創設補助金 ● まつチャレへの参加 参加費、交通、参加費支援 ● 指導者 人材バンク、指導者研修、相談窓口 ● サポートデスクについて 対応内容 ● 個別相談

やってみよう！
どうなる？ まつチャレ
部活動の地域移行 説明会

参加無料
各日程60名
Web サイトにて事前申し込み
《当日参加も可》
※2回とも同じ内容で実施します

お申し込みはこちらから

第1回 12月22日(日) 14:00～15:30 (会場 / 波田公民館大会議室)
第2回 2月1日(土) 10:00～11:30 (会場 / 庄内地区公民館大会議室)

今、全国で中学校の部活動の地域移行に向けた取り組みが進められています。当たり前にあった部活動が変わることに、不安も大きいのではないのでしょうか。

部活動はなくなるの？
いつまでに変わるの？
どうやって参加するの？

そこで、松本市が目指す「新しいスポーツ・文化芸術活動」について、ご説明します。

対象 クラブ関係者、保護者（生徒）、地域指導者、企業関係者
お問合せ先 松本市教育委員会 教育政策課 教育政策担当 / TEL:0263-33-3980
まつチャレサポートデスク / TEL:0120-979-066

© Sports Data Bank Group

04 動画 | 松本市の目指す姿（部活動地域移行の松本モデル）

● 動画による周知

※ 動画視聴



© Sports Data Bank Group

05 情報提供 | 令和8年度以降の方策について（国の取組み）

● 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議

地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議の概要について

資料3

設置目的

急激な少子化の進展に伴い、組織的・体系的に活動をする機会が減少する中、子供たちが将来にわたって継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保するためには、学校だけでなく、広く地域全体として、希望する活動を主体的に選択できる環境の整備を図ることが重要である。

今後は、人々のウェルビーイングやまちづくりに資するよう、子供や大人、高齢者や障害者の参加・交流を推進する地域スポーツ・文化芸術活動の中に部活動も取り込み、地域と学校の一体化による子供の活動の最適化を図り、多様な機会を提供する必要がある。

このことは、地域においてスポーツ・文化芸術活動を楽しむ人口の確保や参加率の向上だけでなく、住民の健康増進、地域社会の維持・活性化にもつながる。

その際、地理的・人的要因により体験格差を生まないことが極めて重要であり、対面とデジタルを最適に組み合わせるなど、新たな手段を最大限活用しながら取組を進める必要がある。

このように、既存の枠組みに捉われず、地域に開放し、各地域の実情に応じて持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術活動を創造する観点から、部活動に関する価値観を転換することも必要である。

併せて、質の高い公教育の再生やチームとしての学校運営の観点からも、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会の確保のため、学校内外の教育活動との関わりを含め、学校と地域が連携・協働していくことが求められる。このことは、学校の働き方改革を推進し、学校教育の質の向上にもつながる。

スポーツ・文化芸術活動を融合し、これらに対する子供たちの欲求を豊かに高め、応えていくことで、ライフパフォーマンスを向上し、自分自身あるいは仲間とともに困難を乗り越える力を育むことや、美しい振舞いを学んでいくことなども重要である。

これらを踏まえ、新たな地域スポーツ・文化芸術の創造と部活動改革を実行するため、現行のガイドラインと同様に、公立の中学校の生徒の活動を主な対象とし、今後の方向性や総合的な方策を検討するために、本会議を設置する。

1

※スポーツ庁会議資料より抜粋

© Sports Data Bank Group

● 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議

検討体制（案）

実行会議

地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議

【主な議事】

- 地域クラブ活動への移行に係る課題の整理・解決策について
- 令和8年度以降の地域クラブ活動への支援方策等について
- ガイドラインの見直しの論点整理について

【委員構成】各団体の役員等

（経済界、地方団体、推進自治体、学校関係者、PTA、スポーツ・文化団体、弁護士、マスコミ等）

【開催頻度】3回程度／年

※スポーツ庁、文化庁が合同で開催。

WG

地域スポーツクラブ活動WG

【主な議事】

- 実証事業の取組状況等を踏まえた課題の整理や解決策の検討
- 地域クラブ活動のモデル・プロセス等の分析、受益者負担と公的支援のバランスを踏まえた今後の支援の在り方（困窮世帯への支援含む）
- 対面とデジタルの最適な組み合わせ
- ガイドラインの見直しに向けた論点整理

【委員構成】各団体の実務者等

（推進自治体、学校関係者、事業者、スポーツ団体、競技団体等）

【開催頻度】4回程度／年

※スポーツ庁

地域文化芸術活動WG

【主な議事】

- 実証事業の取組状況等を踏まえた課題の整理や解決策の検討
- 地域クラブ活動のモデル・プロセス等の分析、受益者負担と公的支援のバランスを踏まえた今後の支援の在り方（困窮世帯への支援含む）
- 対面とデジタルの最適な組み合わせ
- ガイドラインの見直しに向けた論点整理

【委員構成】各団体の実務者等

（推進自治体、学校関係者、文化団体、実践団体）

【開催頻度】4回程度／年

※文化庁²

※上記の他、地域スポーツクラブ活動体制整備事業において、実証事業等の調査・分析を実施

※スポーツ庁会議資料より抜粋

© Sports Data Bank Group

● 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議

実行会議等のスケジュール（案）

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	春頃
実行会議 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議	第1回			第2回 中間取りまとめ（案）	関係団体ヒアリング書面		第3回 取りまとめ（案）
WG 地域スポーツクラブ活動WG	第1回	第2回	第3回		第4回		
WG 地域文化芸術活動WG	第1回	第2回	第3回		第4回		

※実行会議、WGについては必要に応じて追加開催。

※スポーツ庁会議資料より抜粋

© Sports Data Bank Group

（別紙1）

地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議
地域スポーツクラブ活動ワーキンググループ 委員名簿

（五十音順、敬称略）

池田 敦司	一般社団法人大学スポーツ協会専務理事、仙台大学体育学部教授
石川 智雄	新潟県長岡市教育委員会学校教育課部活動地域移行担当課長
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社代表取締役
磯貝 美奈子	公益財団法人日本陸上競技連盟強化部長
稲垣 和希	イマチャレ製作委員、エデュシップ株式会社エデュケーション・リサーチ・イノベーター、つくば市ジュニアスポーツ・文化活動地域展開コーディネーター
浦野 善裕	岐阜県教育委員会体育健康課長
影山 雅永	公益財団法人日本サッカー協会技術委員会委員長
金崎 良一	長崎県長与町教育委員会教育長
金沢 敬	公益財団法人日本スポーツ協会事務局長代理
駒崎 彰一	渋谷区立原宿外苑中学校校長
酒井 裕史	コナミスポーツ株式会社地域スポーツ事業部長
新宮領 毅	公益財団法人日本中学校体育連盟専務理事
友添 秀則	環太平洋大学体育学部教授
中山 登	徳島県教育委員会特別支援教育課長
星川 智哉	ソフトバンク株式会社コンシューマ事業推進統括サービス企画本部コンテンツ推進統括部スポーツ企画2部長
松尾 哲矢	立教大学スポーツウエルネス学部教授
三上 真二	公益財団法人日本バラスports協会参事
山本 明	公益財団法人日本バスケットボール協会育成テクニカル推進セクションシニアマネージャー
渡邊 秀二	長野県南佐久郡佐久穂町教育委員会教育長、南佐久郡中学校部活動運営委員長
渡邊 優子	NPO法人希楽々理事長、総合型地域スポーツクラブ全国協議会幹事、新潟県村上市スポーツ推進委員

（別紙2）

地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議
地域文化芸術活動ワーキンググループ 委員名簿

（五十音順、敬称略）

池上 潤子	静岡県教育委員会義務教育課指導監
大坪 圭輔	武蔵野美術大学名誉教授、公益社団法人日本美術教育連合代表理事
北山 敦康	静岡大学名誉教授、NPO法人しずおか音楽文化支援協議会理事長
木村 博明	富山県朝日町教育委員会教育長
栗山 大和	公益財団法人掛川市文化財団事業部施設管理係・文化振興事業係主事補兼地域部担当
清水 健司	一般社団法人全国邦楽器組合連合会理事長、株式会社ツタヤ楽器代表取締役
鈴木 健一郎	新潟県佐渡市教育委員会教育次長
戸ノ下 達也	一般社団法人全日本合唱連盟理事、都留文科大学・明星大学非常勤講師
西野 直樹	兵庫県加古郡播磨町立播磨中学校校長、NPO法人スポーツクラブ21はりま理事長
野口 由美子	全国中学校文化連盟理事長
星 弘敏	一般社団法人全日本吹奏楽連盟常任理事

「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」中間とりまとめ骨子（案）①

資料 1

1. 改革の理念

- 急激な少子化の中にあっても、将来にわたって子供たちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保するのが改革の主目的
- 学校で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障

⇒ 上記の理念等を的確に表すため、「地域移行」という名称は、例えば、「地域展開」などに変更

※改革を実現するための手法を考える際には、教員の負担軽減が図られることについても考慮

2. 改革推進期間の成果等

- 令和5年度から「改革推進期間」がスタートし、国の実証事業等を通じて、意欲ある地方公共団体による取組が着実に進捗。既に休日の地域展開を完了している地方公共団体や、令和7年度末又は8年度末までの完了を目指している地方公共団体も存在しており、今後も更に改革が進捗していく見込み
- 先行して取り組んだ地方公共団体の創意工夫により、地域クラブ活動のモデルや各種課題の解決のためのノウハウなども明らかとなってきた
- 他方、改革途上にある地方公共団体等も多い。これまでの改革の歩みを止めず、より一層の改革を進めていくことが必要

サイドバーディス

3. 更なる改革のために特に地方公共団体に伝えるべきこと

- これから改革に取り組む地方公共団体においては、早急に改革に着手（先行事例を踏まえ、例えば、まずは休日の改革に取り組むなど）
- 既に改革に着手している地方公共団体においては、地域の実情等に応じて、更に取組を深化
- 改革の理念を実現することが最も重要であり、その実現のための手法については地域の実情等に応じた多様な形態を想定

4. 地方公共団体における推進体制の整備

- 地方公共団体において、部活動改革に係る専門部署の設置や総括コーディネーターの配置など、適切な推進体制を整備することが重要
- 都道府県によるリーダーシップや市区町村へのサポート、複数の市区町村による広域連携の取組も重要
- 地域クラブ活動の運営体制については、実証事業等を通じて蓄積された多様なモデルを参考に、地域の実情等に応じて整備することが重要

※スポーツ庁会議資料より抜粋

© Sports Data Bank Group

「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」中間とりまとめ骨子（案）②

5. 地域クラブ活動の在り方

- 地域クラブ活動においては、部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させるとともに、地域ならではの新たな価値を創出することが重要
＜新たな価値の例＞
子供たちのニーズに応じた多種多様な体験（マルチスポーツやスポーツと文化芸術の融合を含む）、子供たちの個性・得意分野等の尊重、学校を越えた仲間の獲得、様々な世代との豊かな交流、専門的指導者による高度な指導、学校段階にとられない継続的な活動など
- 地域クラブ活動の具体的な実施形態や活動内容等は多様な形があり得るもの（従来の部活動の在り方に囚われる必要はない）
※民間のクラブチーム等との区別の明確化や質の担保等の観点から、地域クラブ活動の定義・要件や認定方法等を国として示す必要

6. 次期改革期間の在り方

- 次期改革期間：「改革実行期間」（前期：令和8～10年度 ⇒ 中間評価 ⇒ 後期：令和11～13年度）
※これから改革に取り組む地方公共団体においても、前期で地域展開（困難な場合は地域連携）に着手
- 市区町村が幅広い関係者の理解と協力の下、平日・休日を通じた活動を包括的に企画・調整し、多様な選択肢の中から地域の実情等にあった望ましい在り方を見出していくことが重要
- 休日及び平日の具体的な取組方針等については、更に議論を深める（※第3回WGでの議論を踏まえて、中間とりまとめ（案）の記載を検討）
- 地域の実情等に応じて継続的かつ円滑に取組を進められるよう、受益者負担と公的負担とのバランスなど費用負担の在り方を検討

7. 学習指導要領における取扱い

- 地域クラブ活動は、学校単位で行われてきた部活動とともに、教育的意義を有する活動であり、継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保し、学校を含めた地域全体で生徒の望ましい成長を保障するもの。そのため、地域クラブと学校との連携が重要
- こうした地域クラブ活動の意義や地域展開の進捗等を踏まえつつ、学習指導要領の次期改訂時にあわせて、地域クラブ活動と部活動に関する記載の在り方を検討（※最終とりまとめまでに更に議論を深める）

【最終とりまとめまでに検討する主な事項（個別課題への対応等）】

1. 「地域クラブ活動」の実施体制の在り方
2. 指導者の質の保障と量の確保
3. 「地域クラブ活動」を行う活動場所
4. 活動場所への移動
5. 競技大会運営の在り方
6. 保護者等関係者理解促進
7. 生徒の安全確保のための体制
8. 特別支援学校等における部活動改革
9. 費用の負担の在り方

※スポーツ庁会議資料より抜粋

© Sports Data Bank Group

3. 見直しの概要

（1）学校と地域クラブとの連携等に関する記載の新設【総則編】※中学校・特別支援学校（中学部）

現行の部活動ガイドラインの記載に沿って、地域クラブ活動の位置付け（学校外の活動）や教育的意義等を明確化した上で、以下の内容を記載

- ① 学校と地域クラブとの間での活動方針等の共通理解を図る
- ② 特に、平日と休日で指導者が異なる場合、指導の一貫性を確保する観点から緊密に連携
- ③ 地域で実施されているスポーツ・文化芸術活動の内容等を生徒・保護者に周知

（2）部活動の現状の位置付けの明確化【総則編】※中学校・高等学校・特別支援学校（中学部・高等部）

部活動は、法令上の義務として実施されるものではないことから学校の判断により実施しないこともあり、また、全ての生徒が一律に加入しなければならないものではなく、生徒の自主的・自発的な参加により行われるもの

（3）部活動における多様な生徒・ニーズへの配慮【保健体育編】※中学校・高等学校

- ① レクリエーション志向の生徒や、運動が苦手な生徒、障害のある生徒など、どの生徒でも参加しやすい活動内容や活動時間等とするなどの工夫を実施
- ② 複数のスポーツや文化・科学分野等の様々な活動も含めて幅広く経験できるよう配慮

4. 今後のスケジュール（予定）

- ・10月23日・24日 部活動改革に関する実行会議WG（スポーツ、文化芸術）での審議
- ・10月25日 中教審・教育課程部会での審議
- ・12月上旬 部活動改革に関する実行会議での審議
- ・12月中 改訂・通知

2

令和6年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題への対応状況（課題管理表）

2024/12/19

№	分類	内容	課題提起 学保 関	対応者	期限	対応	対応完了日
1	市としての理念	松本市としてのビジョンを（しかるべき人から）示してほしい。休日部活動の移行という観点からだけでなく、松本市として、スポーツや文化の活動をどのように捉えているか示してほしい。この長期展望からR5（R6も）の地域クラブ活動の目指す姿（当面の完成形）を示してほしい。	○	学校教育課 スポーツ事業推進課 文化振興課 教育政策課	2023/10/1 ↓ 2024/3/31 ↓ 2024/4/9 ↓ 2024/9/25 ↓ 2024/10/4 ↓ 2024/11/30	<2023/10> 国のガイドラインにおいても、各自治体における推進計画の策定が示されているため、今年度を目途に推進計画を策定し、目指す姿の周知を図ります。 <2024/2> 推進計画を2月に策定し、概要版も作成しました。 <2024/4> 小中学校の児童生徒、保護者に対して地域移行のリーフレットを作成し校務支援ツールから配信しました。 <2024/9> ・9月からまつチャレ通信を定期発行し、校務支援システム（C4th home&school）で配信しました。 ・9/25の市長定例記者会見で、松本市における今後の移行方針等を説明しました。 <2024/10> 市の公式Youtubeチャンネルにて、部活動の地域移行の内容を配信しました。 <2024/11> 市長と市民が懇談する多事争論会において、部活動の地域移行について、移行スケジュールや支援策などを説明しました。	
2	推進日程	本当に部活動の移行は行われるのか。いつから部活動がなくなる、ということに明言してほしい。覚悟が決まらない。令和8年度の移行に向けて、令和5年度は何をするのか。具体的なスケジュールを示してほしい。	○	教育政策課 学校教育課	2023/10/1 ↓ 2024/9/9	<2023/6/15> ・松本市議会6月定例会の一般質問において、令和7年度末までに地域移行を完了する旨答弁しました。 ・具体的なスケジュールについては、現在作成中の推進計画策定後（2月頃）に提示します。 ・推進計画に、休日部活動は令和7年度までに、平日部活動は令和8年度に移行することを目指して取組みを進めていくことを明示しました。 <2024/9/9> ・地域移行の情報紙「まつチャレ通信」を刊行し、9月号に各学年に応じた移行スケジュールの表を掲載しました。	
3	協議会	協議会の議論の様子を定期的に共有してほしい。何が決まって、何が課題点なのかについて、現場レベルでは情報が無い。校長会・教頭会等で教えてほしい。	○ ○ ○	教育政策課 学校支援室 スポーツ事業推進課	2023/6/30 ↓ 2023/10/1 ↓ 移行完了まで	<2023/6/15> 市ホームページに協議会のページを作成し、会議資料をアップロードしました。 <2023/7/19> 野球合同部活動の状況について校長会に説明しました（オンライン）。 <2023/10/10> 市長記者会見にてモデルケースの進捗状況等について報告しました。 市HP内に部活動地域移行のまとめサイトを作成しました。 <2023/10> 校長会の幹事会及び校長会の中学校部会において、進捗状況を報告しました。 <2023/12> 公民館長会にて、地域移行の概要について説明しました。 <2024/1> 校長会幹事会及び校長会において、進捗状況を報告しました。 <2024/4> 校長会幹事会及び校長会において、今年度の予定を報告しました。 <2024/8> 校長会幹事会及び校長会において、まつチャレ通信の発行、ロゴマークの募集について報告しました。 <2024/9> 校長会幹事会及び校長会において、アンケートの実施、ICTを利用した地域移行支援アプリの実証について報告しました。 <2024/12> 校長会幹事会及び校長会において、12月22日に開催する部活動の地域移行説明会の実施について案内しました。	

令和6年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題への対応状況（課題管理表）

2024/12/19

№	分類	内容	課題提起 学保関	対応者	期限	対応	対応完了日
5	指導者	希望する教員が地域クラブ指導者となり、希望しない教員が関わらないで済む体制をお願いしたい。	○ ○	学校教育課	2024/3/31 ↓ 2024/10/9 ↓ 2024/11	<2023/7/28> 学校関係の協議会参加委員から校長会を經由して各校へ周知します。 <2024/1> 校長会において、学校側の地域移行の具体的な進め方について説明し、今後、兼職兼業を希望する教員がどのように関わっていくか提案しました。 <2024/10> 市PTA連合会主催の説明会に出席し、部活動地域移行の説明の中で、原則、兼職兼業届けは希望する教職員のみで、強制されるものではないことを説明しました。 <2024/11> 各学校の吹奏楽部保護者会において、吹奏楽の地域移行の目指す姿等を説明するとともに、現在の顧問に対して、兼職兼業の意思確認をしました。	
7	地域クラブ活動の在り方	地域クラブ活動のガバナンスを担保する必要がある。指導者のハラスメント、異なる学校間で集まる生徒間のトラブルについても学校ではなく各地域クラブ活動で対応する必要がある。	○ ○	スポーツ事業推進課 学校教育課	2024/12/1	<2023/10> 指導者向けの研修会について、令和6年度の開催を検討しています。 <2024/6> 今年度はプロスポーツクラブのコーチによる指導者研修や教育委員会による教育的意義についての研修を実施する予定です。	
8	地域クラブ活動の在り方	レクリエーション志向の種目などをはじめ多様な種目を体験できる地域クラブ活動が活発になるよう期待したい。	○ ○	教育政策課 スポーツ事業推進課 文化振興課 生涯学習課	2023/12/1	レク志向、競技志向については、各団体の活動方針によりますが、今後地域クラブ団体の一覧表を作成するにあたっては、クラブ団体にヒアリングを行い、表中に掲示できるよう検討します。 <2024/1> 中学生の受入れが可能な団体一覧を作成し、市ホームページに公開するとともに、学校と保護者の連絡ツール（C4th home&School）にて、情報配信を行いました。 <2024/9> 第2回中学校部活動地域移行プロジェクトチーム会議にて、中学生の受入れが可能な団体一覧を、より視覚的に紹介する「団体カタログ（仮）」の作成を提案し、現在募集中です。 <2024/11> 団体カタログのレイアウトや、まつチャレ団体一覧の入力フォームとの統一について、関係課及びスポーツデータバンクと調整しました。	
9	指導者の質	教員が大切にしてきた生徒個人の特性等に応じた指導は、これからも重要である。子どもと接する機会の少ない地域クラブ指導者の質を向上するために研修の機会が必要である。市として研修会を確保してほしい。	○ ○	スポーツ事業推進課 学校教育課	2024/9/30	<2023/4/1> ・本年度から、指導者の質・量の確保を目的に、公認スポーツ指導員資格者の取得に係る経費について補助金交付を行っています（令和5年度実績 コーチ1：7名、スタートコーチ：1名） ・また、指導者向けの研修会について、令和6年度の開催を検討しています。 <2024/6> 今年度はプロスポーツクラブのコーチによる指導者研修や教育委員会による教育的意義についての研修を実施する予定です。	
10	指導者の量	教員が「休日だけでなく、平日も指導に関わりたくない」という意思を表明する状況が予想される。休日も、まして平日の地域クラブ活動の指導者を確保することは困難である。一方で子どものスポーツや文化の活動の衰退は避けるべき。指導者を安定的に確保できる体制を手当てを含めて検討し、整えてほしい。持続的に関わることのできる指導者を確保するために人材バンク等の検討をお願いしたい。	○ ○	教育政策課 スポーツ事業推進課	2024/9/30	人材バンクについては、県教委が設置しているケースがほとんどですが、今後も県の動向や他の先進自治体の状況等も参考にしながら、よりよいマッチング方法について研究していきます。 市の職員が、平日の勤務時間内に地域クラブの指導者を希望した場合に、職免の対応が可能か、検討していきます。 <2024/6> 今年度、マネジメント支援業務委託の中で、指導者の人材バンクの仕組みについても検証する予定です。 <2024/9> 9/30にまつチャレサポートデスクを開設し、指導者人材バンク登録を開始しました。	

令和6年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題への対応状況（課題管理表）

2024/12/19

No	分類	内容	課題提起 学保 関	対応者	期限	対応	対応完了日
11	指導者の量	国は教員に支給されてきた教員調整額の見直しを図っているようだが、今後残業代が支払われることで、教員が平日の時間外に部活動指導を担うという方針があるのか。国の動向を教えてください。	○	学校教育課	2025/3/31	国の動向を確認し、状況に応じて周知いたします。	
12	会費	地域クラブ活動への移行は、低廉な部費から高い月謝を支払うことへ転換されることが予想され、「やってみたい」活動を行えない生徒が一定数生じることが考えられる。低廉な月謝となるよう補助を検討いただくか、低廉な月謝となる地域クラブ活動を創設してほしい。そうでないと、スポーツや文化活動の衰退を招きかねない。	○	教育政策課 スポーツ事業推進課	2025/3/31	地域クラブの会費は可能な限り参加しやすい金額を設定することを推奨します。なお、経済的理由によって参加を諦めることがないよう、市では就学援助対象世帯に必要となる支援を検討します。	
13	送迎	今まで通学する中学校で練習が行われてきた。地域クラブ活動では活動場所は遠方になる可能性がある。周回バスなどにより、「やってみたい」を続けられるシステムを検討してほしい。	○	公共交通課	2025/3/31	・通学する学校以外が会場となる場合があり、保護者の送迎が必要となることもありえます。送迎距離が遠距離にならないよう、様々なエリアでの地域クラブの創設を促進します。 ・市の公設民営のバス路線等の活用を検討していきます。	
14	産学官の連携	体育館や文化施設を有する一般企業や、スポーツ関連企業、あるいは、近隣大学との連携により、地域に根ざすスポーツや文化の活動を醸成してほしい。	○	スポーツ事業推進課	2025/3/31	<2024/10> 指導者人材バンク登録では、学生も随時募集していますので、今後大学等へ周知していきます。	
15	第3者機関	部活動であれば、生徒間のトラブルや顧問の不適切な対応は、学校や教育委員会が指導管理してきた。今後地域クラブ活動を管理し、指導する機関が必要になるのではないかな。	○	スポーツ事業推進課 文化振興課 生涯学習課 教育政策課	2025/3/31	適正な地域クラブ活動が実施されるよう、市が適宜、地域クラブの活動状況を把握し必要に応じて助言・指導を行います。 <2024/9> 9月議会の一般質問において、子どもの権利を侵害する事案に対し、権利条例に基づく調査を「こころの鈴」と連携して実施することを答弁しました。 <2024/12> 12月議会の一般質問において、責任の主体は地域クラブが担うこととなるため、市としてはスポーツ安全保険の加入をクラブに対して求めることとし、生徒間で生じたトラブルに関しては、学校や教育委員会が連携して対応することを答弁しました。また事案によっては「こころの鈴」が相談窓口となっており、関係機関につなぐ対応を行うことを、改めて説明しました。	
16	保険	地域クラブ活動への加入に際しては、子どもや指導者の怪我や事故への保障をカバーできる学校の共済保険と同等の保険への加入をお願いしたい。	○	学校教育課 スポーツ事業推進課 文化振興課 生涯学習課	2024/9/30	<2023/7/5> ・学校を由来とする地域クラブ活動に対しては、スポーツ安全保険への加入を推奨しています。 <2023/7/5> ・スポーツ安全協会に保険の案内用パンフレットの送付を依頼しました。 <2024/9/30> まつチャレの届出要件に、保険の加入についても明記しました。	
17	施設・用器具	地域クラブ活動が学校施設を借りられないと活動できない。中学生が所属する団体には学校施設の優先利用をお願いしたい。そのための学校開放を検討してほしい。その際、校舎に入らなくてもよい外トイレの充実や、ナイター整備も検討願いたい。また地域施設も同様に検討願いたい。	○	学校教育課施設担当	2025/3/31	学校施設の優先利用を検討します。また、体育館トイレが外部から使用できるよう検討します。ナイター設備は、地域住民との調整や費用も多額にかかるので、整備に時間がかかります。既存の施設の利用をお願いします。	
18	施設・用器具	たとえば吹奏楽では、楽器を保管でき、素早く練習を行うことのできる学校の音楽室の利用が期待される。この場合、地域クラブ活動が利用できる学校開放の在り方が求められる。具体的には、地域指導者が利用可能となるよう施設等の在り方を検討する必要がある。	○	学校教育課施設担当	2025/3/31	学校職員以外の方が校舎の中に入れるよう、機械警備の方法を検討します。	
19	施設・用器具	平日や休日の学校施設開放に学校が関わらない仕組みを作してほしい。	○	学校教育課施設担当	2025/3/31	学校施設の貸出ですので、全く関わらない仕組みはできません。	
20	施設・用器具	部活動では消耗品や備品として整備され利用できた用器具（デジタルタイマーやボール、楽器など）を地域クラブ活動は利用可能か。利用できる体制が必要だと思われる。	○	学校教育課施設担当	2025/3/31	サッカーゴールやバレーボールの支柱等は従来どおり貸出します。ボール等の消耗品は、クラブで用意していただきたい。デジタルタイマーや楽器の貸出しは学校と協議したい。	
21	指導方針	当面、平日と休日とで異なる指導者が指導するため、指導の方向性が異なると混乱する可能性がある。またどちらの団体で大会に出場したらよいかを迷う。	○	スポーツ事業推進課	2025/3/31	<2023/11> 大会への出場については、所属クラブの選択と同様に、子どもたちの主体的な選択として、自分で判断し決めてもらうものです。	

令和6年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題への対応状況（課題管理表）

2024/12/19

№	分類	内容	課題提起 学保 関		対応者	期限	対応	対応完了日
22	兼職兼業による指導の混乱	兼職兼業が許可された教員が、平日は部活動の野球を指導し、休日は地域クラブ活動のサッカーを指導している。休日に中体連大会と地域クラブ活動の大会とが重なった場合、どちらを優先する必要があるか。本務は学校であることから部活動を優先することは理解しているが、一方で地域クラブ活動の醸成を目指す際には、この問題がクリアにならないと足かせになる。可能であれば、このような問題をクリアするために休日のみならず平日の部活動の廃止を検討してほしい。	○	○	学校教育課	2025/3/31	平日の部活動については、大会の出場要件や種目、地域の実情によっても移行状況が異なるため、令和8年度以降、準備が整い次第移行することを目指して取り組みます。	
23	特色ある地域クラブ活動	活動自体を楽しむレクリエーション志向の地域クラブ活動を増やしてほしい。競技志向すぎると入ることにハードルが高くなるとされる。様々な活動を整備してほしい。	○		スポーツ事業推進課 生涯学習課 文化振興課	2025/3/31	レクリエーション志向のものも含め、受け皿となる団体との調整を進めているところです。	
24	地域クラブ活動の在り方	新規に地域クラブ活動の団体を設立したいが、どうしたらよいだろうか。	○	○	スポーツ事業推進課 生涯学習課 文化振興課	2024/9/30	<2023/8/8> ・地域クラブ設立に伴う具体的な要件等について、担当課で詳細を検討しています。 <2023/10/23> 教職員向けの現行部活をクラブ化する場合の流れについて案を作成し、校長会の中学校部会において説明しました。 <2024/6> 松本市地域クラブの要件を本年度定める予定です。策定次第、地域クラブの登録方法等を広報等で周知いたします。 <2024/9> 9/30に開設したまつチャレサポートデスクにて、新規クラブ立ち上げのための相談を受け付けます。	
26	県の財源	休日の部活動には、部活動手当が支給されていた。地域移行が進み、顧問が指導しなくなれば、県はこの財源をどのように活用していくのか。この財源が地域クラブ活動への補助となるか。	○	○	教育政策課	2025/3/31	2023/8/1 ・部活動手当とは関係なく、国として地域クラブ活動への新たな補助制度を検討しているようですが、詳細は未定です。	
27	地域特性	山間地の部活動をどのように移行するのか。山間部の学校の生徒の「やってみたい」を実現するために、送迎の問題を含めて検討してほしい。	○	○	教育政策課	2025/3/31	山間地においては、移動に要する時間的なロスが大きいため（特に平日）、ICTを活用したりモートコーチング等も視野に検討していきます。 <2024/6> 本年度、ICTを活用した指導（AIスマートコーチ）について実証を行います。	
28	地域クラブ活動の在り方	様々な事情を抱えた子のフォローなど、学校が関与せずにできる仕組みを構築してほしい。	○		学校支援室 スポーツ事業推進課	2024/3/31		
29	指導者	ボランティアでは継続性がない。兼業兼職の謝金は市でなんとかしてほしい。	○		学校教育課 教育政策課	2024/3/31	地域クラブの指導者はボランティアを前提とせず、必要な謝礼を受け取りながら活動の継続性を高めることが必要と考えます。移行期間中の謝金については、国および県の動向を確認しながら、検討していきます。	
30	市としての理念	種目、場所、時間を子どもが選択できるが、選んだ責任は選んだ側にあること(自己責任)であることを市からしっかり保護者に説明してほしい。	○		学校支援室 スポーツ事業推進課 文化振興課	2024/3/31		
31	市としての理念	地域移行について、全ての種目の保護者に保護者説明会を開いてほしい。	○		学校支援室 スポーツ事業推進課 文化振興課	2024/3/31	<2024/1> 学校からの要請に応じ、順次保護者説明会にて地域移行の説明を実施しています。	
4	協議会	どのようなルートで情報は周知され、どこが課題点を検討するのか。どこが何をするのか、という協議会の持ち方を明らかにしてほしい。	○	○	教育政策課	2023/6/30	<2023/8/1> ・関係者会議で各課の課題を協議し、移行検討協議会で承認いただいた後、市ホームページや各種説明会等での周知を行います。	2023/8/1
6	競技会等の在り方	中体連以外の競技会運営にも教員が関わっていたが、今後、指導を希望しない教員が増えることが予想される。運営スタッフの不足を補充するアルバイト等を募集すれば、結果的に参加費の高騰を招く可能性がある。競技会等の在り方を検討する必要があるのではないかな。	○	○	スポーツ事業推進課	2023/12/1	<2023/11> 地域移行プロジェクトチーム会議で、大会の運営体制の在り方等について、各競技団体へ検討をお願いしていきます。	2023/12/1
25	部活動の在り方	学校は、今後入学する生徒数を勘案して、部活動の存続や他校への委任指導、合同部活動など、部活動の在り方を検討しはじめてよいかな。部活動を廃部とすれば、他の部活動の人数が増える偏りが生まれる可能性もある。同様に他校との調整を図る必要はないかな。学校として動きたいが、どのように動いたらよいかな教えてほしい。この検討の際、学校間のみならず競技協会、中体連等との連携をお願いしたい。また拠点校部活動についても同時に検討願いたい。	○	○	学校教育課	2023/12/1	<2023/7/5> ・今後の入学者数を長期的に捉えて、部活動数の適正化を図る必要があります。委任指導や合同部活動を許可する校長会が主導することとなります。 ・拠点校部活動はあくまで部活動の枠組みとなるため、本市では実施を検討していません。拠点校を構成したとしても、地域移行を進めるために、その拠点校の地域移行を再度検討する負担が生じます。また拠点校部活動を指導する指導者は、異動が前提となる学校職員であることを考えると、持続的に関わることでできる指導者を確保できない可能性があります。また指導を希望しない教員が指導を行わざるをえない可能性も払拭できないものと思われます。	2023/7/5

地域移行検討協議会資料
6. 1 2. 1 9
教育政策課

地域クラブへの送迎について

1 趣旨

令和6年2月に策定した松本市部活動地域移行推進計画では送迎支援は行わないことを明記していますが、送迎支援の必要性を求める要望や、問い合わせをいただくため、他市の事例や市の考え方について報告するものです。

2 市民から寄せられる声

アンケート調査回答（令和6年10月実施 速報）

「地域クラブで活動するようになったとき、心配なことや不安なことはありますか？」（複数回答可）との問いに対し、回答数2,523人の内、1,905人の保護者が「家から活動場所まで送迎できるか」を選択。（約75.5%）

3 送迎に関する松本市の現状方針

(1) 松本市部活動地域移行推進計画（抜粋）

「通学する学校以外が会場となる場合があり、保護者の送迎が必要となることもありえます。送迎距離が遠距離にならないよう、様々なエリアでの地域クラブの創設を促進します。」と定めています。

4 他自治体の事例

(1) 長野県内の事例（別紙2）

ア 長野市

(ア) 学校間をつなぐ循環バスの運行（令和5年度から運行地域を限定して実施）

- ・主会場となる中学校とその周辺の中学校を巡回するバスに乗車することで地域クラブ活動への参加を可能とする。

(イ) 事業用車両等を活用した実証事業（令和6年11月から令和7年1月まで実施）

- ・複数の中学校から、拠点となる施設への移動手段を支援する送迎支援。協力を賛同する事業者（福祉事業者や保育園等事業者）の所有する車両を、事業者が利用していない時間帯に安価で借り上げ、送迎車両として運用を行う。

イ 千曲市・坂城町（千曲坂城クラブ）

(ア) 学校間をつなぐ循環バスの運行（令和5年度から実施）

(イ) 学校間を繋ぐタクシーの運行（令和5年度から実施）

(2) 県外の実例

ア 山口県美祢市 中山間地域における部活動地域移行

～「部活動 MaaS」による持続可能な地域移行モデルの検証～（実証事業）

保護者がアプリ上で送迎サービスを予約し、予約された生徒の家から活動場所までを送迎する乗り合いサービスの実施。

イ 群馬県渋川市

こどもデマンド渋川（実証事業）

塾や習い事、放課後児童クラブへの移動や、部活動の地域移行に伴う移動として利用できる、タクシーを使ったデマンド送迎サービス。群馬県と渋川市が連携して実施。

5 送迎に関する松本市の考え方

従来通り、保護者等による送迎を基本としますが、支援策については、保護者からの要望が多いことを踏まえ、試行的に一部のエリアに限定したり、一定の条件を設けて実施したりするなど、国・県の動向や他市の事例も参考にしながら、引き続き研究を進めます。

(1) 保護者等による送迎を基本とする理由

ア バス・タクシー運行

- ・本市では、生徒がやりたい種目を市内外から自由に選択するため、一人ひとり参加するクラブが異なり会場や活動時間が同一ではないことから、効果的な一斉送迎やルート送迎は困難です。

イ 財政的支援

- ・参加者へタクシー利用券や交通費を支給する方法については、現在の国の実証事業が家庭への直接給付を対象外としており、市単独で経費を負担することは困難です。

ウ 公平性

- ・移行後、中学生が参加する活動はまつチャレ（＝地域クラブ）だけでなく、学習塾やその他のクラブ活動も想定されるなか、まつチャレ参加者だけに送迎支援を行うことは適切ではないと考えます。
- ・小学生も同じように市内外の様々な活動に参加しているなか、中学生だけ送迎支援を行うことは適切ではないと考えます。

エ 発展性

- ・送迎支援により、一部のクラブに参加者が集中する可能性があり、様々なエリアで多様な活動が展開されにくくなり、子どもの選択肢が限定されてしまいます。

(2) 今後の対応

ア 取組みの理念の周知

- ・まつチャレへの参加は自由意志であり、活動内容、会費、会場などを総合的に勘案し、現実的に参加可能なクラブを選択してもらうよう、説明会等で周知します。

イ まつチャレの創設促進

- ・参加しやすい身近なエリアで多様な活動に参加できるよう、まつチャレの創設促進を進めます。

ウ 国の補助制度等の活用検討

- ・スポーツ庁及び文化庁では、現在、令和8年度以降の受益者負担と公費負担の在り方等について、検討を進めています。送迎支援に関する補助金等が創設された場合は、積極的な活用を検討します。

長野県内外 他市事例

市町村	内容	
長野市 (37万人)	R 5 循環型交通システム ※対象は若穂中近辺の中学校のみ	学校間をつなぐ循環バスの運行 ・地域クラブ(サッカー)が運営するクラブ活動への自立参加を可能とさせる循環バスの運行を実証 ・主会場となる若穂中学校とその周辺の中学校を巡回するバスに乗車することでクラブ活動参加を可能とする。 委託先：民間企業 クラブ活動場所：若穂中学校・若穂中央公園運動場・近隣中学校 対象：若穂中学校生徒・近隣中学校生徒
	R 6 空き車両を使った送迎 ※対象は市内の一部	事業用車両を活用した持続可能な移動手段の確保 事業者(福祉事業者や保育園等事業者)に協力を仰ぎ、クラブ活動の時間に自社車両の活用がない事業者から、安価に車両を借り上げ、運用する。事業者所有の車両が開いている時間、地域クラブの送迎に使用する。 委託先：民間企業 委託先企業が協力企業を集め、空いている車両を使い、送迎支援を行う。
千曲市 (5.8万人) 坂城町 (1.3万人) 千曲坂城クラブ	循環型交通システム ※対象は以下の学校 千曲市 ・屋代中 ・埴生中 ・更埴西中 ・戸倉上山田中 坂城町 ・坂城中	学校間をつなぐ送迎支援。マイクロバス・タクシーに乗り込み練習場所となる学校へ送迎する。 ①学校間をつなぐ循環バスの運行 往路 戸倉上山田中(16:30)～埴生中(16:45)～更埴西中(17:00) 復路 西中(18:25)～埴生中(18:40)～戸倉上山田中(18:55) 運行期間：35日 ※11月まで 4/17～11/17 対象者：水泳(3～5名)、バレー(4～9名)、バスケ(15名)、野球(3名) ②学校間をつなぐタクシーの運行 往路 更埴西中(16:30)～屋代附属中(16:45) 復路 屋代附属中(18:30)～更埴西中(18:45) 運行期間：22日 ※7月県大会まで 5/9～7/20 対象者：ハンドボール(2名)
山口県美弥市 (2万人)	部活動Maas ※対象は中山間地域の学校	中山間地域における部活動地域移行 ～「部活動Maas」による持続可能な地域移行モデルの検証～ 保護者がアプリ上で送迎サービスを予約し、生徒の自宅から活動場所までを送迎する乗り合いサービス。 対象：合同部活動(ソフトテニス部、野球部、バレーボール部)中1～2、スポーツイベント小2～中3 運行期間：R5.10～12月
群馬県渋川市 (7.6万人)	こどもデマンド渋川 ※対象は18歳以下のこども	児童の塾や部活動送迎を対象としたデマンドタクシーサービスの実証実験。送迎負担軽減、教育格差の解消を目的とする。 対象：18歳以下 運行時間：平日16～22時 土日祝7～13時 運行エリア：市内全域 運賃：1乗車500円、1ヶ月サブスパス3,000円

休日の送迎支援(試算)

【試算】奈川中、大野川中、安曇中の生徒を最寄り駅(新島々駅)まで送迎する

◆運行内容

運行日程：毎週1回(土日のいずれか1日)
車 両：5人乗りタクシー 2台
乗車定員：10人
運行往路(奈川中→大野川中→安曇中→新島々)所要時間 約1時間
想定 奈川中8:00→大野川中8:30→安曇中8:50→新島々駅9:00
運行復路(新島々→安曇中→奈川中→大野川中)所要時間 約1時間
想定 新島々駅17:00→安曇中17:10→奈川中17:30→大野川中18:00

◆想定費用

走行距離：片道40km(往復80km)
初乗り運賃：700円
加算運賃：229m毎100円
(700円 + (40,000m ÷ 229m) × 100円) × 2(往復) × 2台 × 年52回(週1回)
⇒ 年間約3,785,600円
※一人当たり約378,560円相当

◆想定される課題

- ・最初に乗車した生徒の乗車時間が1時間以上になる。
- ・一人ひとり参加するクラブが異なり、会場や活動時間が同一ではないことから、効果的な一斉送迎やルート配送は困難。
※新島々駅から地域クラブ活動の活動場所へは電車等を利用し、各自で行くことになる。
- ・同様の支援を各地区で実施した場合の財政負担が大きい。



地域移行検討協議会資料
6. 1 2. 1 9
学校教育課・教育政策課

山間地域における地域移行の現状と課題

1 趣旨

山間地域における部活動の地域移行は、地域の活性化や子どもの健全な育成を促進する上で重要です。しかし、山間地特有の環境が子どもたちのスポーツや文化・芸術活動への参加を妨げないよう、工夫が求められます。

そこで、山間地の特性を活かした持続可能な活動の具体的な可能性を探るため、現地視察を実施しましたので、報告するものです。

2 対象地区

安曇地区、大野川地区、奈川地区、四賀地区

3 実施日

令和6年11月26日（火）、28日（木）、12月4日（水）

4 山間地域の現状

別紙のとおり

5 山間地視察を通しての所感

(1) 地域ごとの特性

- ア 大野川地区と四賀地区については、地域に指導者が存在し、地域活動も比較的活発であることから、地元で活動できる余地があると感じた。
- イ 大野川地区では、コミュニティスクールのコーディネーターが日頃から学校と連携し、地域移行後の放課後活動についても検討を進めている様子がうかがえる。コーディネーターの存在は非常に重要である。
- ウ 安曇地区は山間地域の中では比較的街場にアクセスしやすい環境にある。そのため、波田地区でクラブ活動が盛んになれば、選択肢の幅が広がる。
- エ 奈川地区は子どもの人数が少なく、交通の便も悪いため、部活動がなくなると何もしないことを選択する子どもが増加する可能性がある。

(2) 活動の可能性

- ア 山間地域独自の活動としては、自然を活かしたトレッキング、キャンプ、登山などが考えられる。安曇地区には「リトルピークス」、奈川地区には「だいじ屋」といった企画運営会社が、すでに存在している。平日に活動するのは難しいかもしれないが、土日や長期休暇中にイベントとして実施し、市街地から参加者を募ることは可能ではないか。
- イ 伝統芸能については、かつて太鼓などの活動が行われていたものの、コロナ禍を境に停滞している傾向が見られる。道具は残っているため、伝統文化の継承も含め、復活が期待される。

(3) 課題と対応策

- ア 地域クラブ活動が困難な地域の対応策として、7時間目に校内活動の一環で、子どもたちが主体

的に取り組める「サークル活動」を導入することが有効ではないか。この場合、教員は指導ではなく、活動の見守りや計画への助言にとどめることで、教職員の負担を軽減しつつ、子どもたちの選択肢を広げることが可能となる。

- イ 平日のクラブ活動については、子どもたちの身体的・経済的な負担を考慮すると、市街地での活動は難しい状況である。そのため、平日は地域内での活動に参加し、休日には市街地で活動するなど、柔軟な対応が必要となる。
- ウ 大野川地区にはドローンの操縦を指導できる人材がいるため、アーバンスポーツとしてドローンクラブを創設することが可能と考えられる。特に 100g 未満のドローンであれば、航空法の許可なく飛行が可能であるため、活動の実現性が高い（松本市内の場合、人口集中地区に該当し、許可なくドローンを飛行することができないため、屋外で飛行できることが魅力となる）。

6 今後のポイント

- (1) 地域の指導者不足
- (2) 自宅から練習会場への距離や交通手段
- (3) 費用負担のバランス
- (4) 生徒の参加意欲や継続性

7 考えられる活動（案）

- (1) 自然環境を活かした活動【実現可能性：高、費用感：中、効果：高】

山間地ならではの豊かな自然環境を活用した活動は、地域特有の魅力となり得る

例 1) アウトドアスポーツ：トレッキング、マウンテンバイク、クロスカントリースキーなど
地元の自然を最大限に活用し、地域住民や外部のアウトドア愛好者を指導者として招くことが可能。これにより、地域の人々の交流や新たな地域資源の発掘にもつながる。

例 2) 環境学習やエコアクティビティ：森林保全活動や川の清掃、自然観察など
子どもたちが地域環境の重要性を実感し、地域への愛着を深める機会を提供できる。また、地域住民との協働を通じて、持続可能な活動の基盤づくりにも貢献する。

- (2) 少人数でも可能な競技スポーツ【実現可能性：高、費用感：中、効果：中】

児童生徒数が少ない場合は、少人数で取り組める種目が適している

例 1) 個人競技：バドミントン、陸上競技、卓球、柔道、剣道など
少人数でも競技できる個人スポーツは、参加者のスケジュールや人数に柔軟に対応できるため、実施しやすい。個々の成績や成長が見えやすく、モチベーションの維持にも効果的。

例 2) ミニバスケットボールやフットサル：少人数でプレイ可能な形態にアレンジ
少人数でのチームプレイに適応できるよう、ルールやチーム編成を調整することで、参加者全員が活躍できる機会を作り出せる。地域内での対抗戦やイベントも開催しやすく、地域の絆を深めることができる。

例 3) アーバンスポーツ：BMX、スケートボード、ブレイクダンス、ダブルダッチなど
近年人気のあるアーバンスポーツは、場所や道具を工夫することで、低コストで実施可能。また、若年層を中心に関心が高く、地域における新しい活力を生むことができる。

- (3) 地域文化や伝統を生かした活動【実現可能性：高、費用感：中、効果：高】

地域に根付いた文化や伝統を継承する活動として、地域の高齢者や団体と連携

例1) 伝統芸能：太鼓、民謡、踊りなど

地域で培われた伝統芸能を学び、地域行事や祭りで披露することが、地域の文化の保存と発展に寄与する。また、地域住民や高齢者の知識・技術を次世代に伝える貴重な機会となり、地域の絆を深めることができる。

例2) 工芸・ものづくり：地元の特産品や伝統工芸を学ぶクラブ活動

地元の特産品（例えば、手織り、木工、陶器など）や伝統的なものづくり技術を学ぶことは、地域資源を有効活用し、地元経済や観光に繋がる可能性もある。また、こうした活動は親子での参加を促し、家族間での交流を深めるきっかけにもなる。

(4) 学校間連携による合同活動【実現可能性：中、費用感：中、効果：高】

近隣の学校（市街地も含む）と合同でクラブを編成することで、選択肢を広げられる

例1) 移動可能な日を決めた「広域型クラブ」：特定の曜日に他校と合同で活動（例：合同野球、広域合唱団など）

他校と協力することで、各学校単独では成立しづらいクラブ活動（例：チームスポーツや合唱団など）を実現できる。また、合同活動により、異なる学校の生徒が交流し、社会性を高める機会にもなる。移動にかかる交通手段の確保が必要。

例2) オンライン連携：講師やコーチがオンラインで指導する形態

オンラインを活用することで、地理的な制約を超えて専門家や外部の講師による指導を受けることができる。特に、文化系の活動（例：音楽、演劇、アートなど）では、リモート学習や指導が有効に機能する。また、オンラインの利点として、移動にかかるコストや時間を削減でき、週に一度の活動など柔軟な形態を取ることができる。

(5) 社会教育や生涯学習を兼ねた取り組み【実現可能性：中、費用感：中、効果：高】

生徒だけでなく地域住民も参加できる形にすることで、活動が継続しやすくなる

例1) 地域スポーツクラブ：子どもから大人まで参加できるスポーツクラブを設立

子どもたちだけでなく、地域住民や地域内の大人も参加できるスポーツクラブを作ることによって、地域全体の健康促進やコミュニケーションの場が提供される。スポーツは世代を超えて楽しめるため、親子で参加する形態を取り入れることも可能。また、地域住民による指導やサポートを受けながら活動することで、地域とのつながりを深めることができる。

例2) 文化系サークル：写真、書道、音楽など、幅広い世代で楽しめる活動

写真や書道、音楽などの文化系サークルを通じて、地域住民が自分の趣味やスキルを共有できる場を提供。これにより、地域住民の参加意欲を高め、活動が継続しやすくなる。特に、文化的な活動は世代を問わず楽しむことができるため、年齢層の異なる地域住民の交流を促進することができる。

(6) プロや専門家との連携【実現可能性：中、費用感：中～高、効果：高】

例1) 外部の力を活用：地域おこし協力隊やボランティア、大学生を指導者として招く

地域おこし協力隊や大学生のボランティア活動は、地域との関わりを深め、活動の多様性を広げるのに役立つ。大学生や若い世代の参加は、地域の子どもたちにも新しい刺激を与え、活動への参加意欲を高める。地域おこし協力隊が関わることで、地域独自の文化や伝統を取り入れた活動がさらに充実し、地域住民との交流も促進される。

例2) イベント型の活動：月に1回プロの指導を受けられる特別教室を設置（ワークショップ）

月1回、プロの講師による特別教室やワークショップを開催し、専門的な技術や知識を学べる場を提供。たとえば、音楽やスポーツ、アートなどの分野で専門家を招き、地域住民や子どもたちに新しい技術を学ぶ機会を提供する。このようなイベント型の活動は、一度きりの特別な体験として地域に新たな価値を提供し、参加者の満足度を高めることができる。

(7) オンラインとオフラインのハイブリット型活動【実現可能性：高、費用感：低～中、効果：高】

例1) オンライン導入で移動回数を削減

オンラインを導入することで、移動回数を削減し、交通の負担や時間を節約することができる。特に、指導者や専門家が遠方にいる場合でも、オンラインを通じて指導やトレーニングを受けることができる。これにより、地理的な制約を克服し、広範囲から専門的な指導を受けられるようになる。

例2) 週1回の移動を減らし、オンライン指導や自宅でのトレーニングを組み合わせる

週に一度、オフラインでの集中的な活動を行い、その間のトレーニングや指導をオンラインで実施する方法。例えば、週に一回のクラブ活動の際に実施する実技やグループ活動をオンライン指導で補い、自宅でのトレーニングや動画指導を組み合わせることで進めることができる。この方法により、移動回数を削減し、時間や費用を節約する一方で、オンラインによる自宅学習や自主トレーニングを通じて、参加者の自主性や継続性を促進することができる。

(8) 日替わり種目のサークル活動【実現可能性：中～高、費用感：中、効果：高】

例1) 毎回異なる種目や活動を行う

毎回異なる種目や活動を行うことで、参加者が飽きることなく、地域特有の自然環境や施設を活かした体験が可能になる。たとえば、春には山菜採り体験、夏には川遊びやキャンプ、秋には紅葉ハイキング、冬にはクロスカントリーや雪遊びなどを実施することができる。このような活動は、地域住民や子どもたちが季節感を楽しみながら参加でき、自然とのつながりを感じることができる。

例2) 地元の指導者や愛好者を巻き込む

地元の指導者や愛好者を巻き込むことで、活動の実現性が高まる。地域内の人々と共に活動を進めることで、地域のつながりが強化され、参加者の興味に応じた柔軟な対応が可能になる。

(9) 地域特性を活かした特別イベント型クラブ【実現可能性：中～高、費用感：中～高、効果：高】

例1) 「1日体験イベント」の活用

市街地から来る人向けに、週末や休暇を利用して特別なクラブイベントを開催。例えば、アウトドアフェスティバルや山のサッカー大会など、地域の特性を活かしたイベントを実施することで、参加者にユニークな体験を提供できる。これにより、地域の認知度向上や観光資源の活用が期待される。

例2) 観光と連動した体験型クラブ

山間地の魅力を観光資源としてPRし、観光客や地域外からの参加者を集める取り組みを行う。地域の自然環境や文化を体験型の活動として提供し、地域の魅力を伝えることができる。観光イベントと連動することで、地域経済の活性化にも寄与し、持続的なイベントの実施が可能となる。

8 今後の進め方

- (1) 引き続き、山間地域におけるクラブ活動の移行について、子どもたちや保護者の声に耳を傾けながら、地域の特性を考慮しつつ、情報共有を進めていきます。
- (2) 松本市では今年度、安曇小・中学校、大野川小・中学校、奈川小・中学校の6校が、県教育委員会が推進する「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）※」の実践校に指定され、1学校群として一体となり学び合います。今後、学校を超えた連携を密に図り、子どもたちの放課後の過ごし方についても検討を進めていきます。
- (3) 今後、山間地の取組みをモデルケースとして、他地域への展開も検討していきます。

【参考】

※ウェルビーイング実践校 TOCO-TON とは、長野県の新時代創造プロジェクト「個別最適な学びへの転換プロジェクト」の取組みの一環として検討を進めてきた、「一人ひとりに合った学び実践校」の正式名称です。すべての子どもが「好き」や「楽しい」、「なぜ」を追求し、自己実現できる学校を目指して、県教育委員会が学校や市町村教育委員会と連携して取り組みます。

実践校に指定された学校では、子ども、保護者、地域との意見交換を通して「学校の仕組み改革」に取り組み、経過をオープンにするとともに、学校公開を行います。令和7年度を準備期間とし、令和8年度から本格的に取組みを開始します。

【別紙】山間地域の現状

	安曇地区	大野川地区	奈川地区	四賀地区
中 学 校 生 徒 数 （令和6年5月1日時点）	20人	8人	5人	59人
最 寄 り 駅 ま で の 距 離	3.7km（車で6分）	18.2km（車で27分）	18.0km（車で27分）	7km（車で11分）
部 活 動 の 状 況	・卓球部は廃部 ・バドミントン部6名	・バドミントン部1名 ・陸上部0名	・バドミントン部2名 ・吹奏楽部1名（鉢盛中と合同）	・野球部3名 ・女子バレー部9名 ・吹奏楽部7名 ・美術部16名
指 導 者 の 状 況	・登山家はいるものの、アウトドア全般を指導できる人材は少ない	・登山ガイド ・ドローン操縦	・高齢化が進んでおり、何かを指導できる人材は少ない ・地域アスリート（吹奏楽）	・部活動指導員（吹奏楽）、地域アスリート（野球、女子バレー）
地 域 の 活 動	・アウトドアツアーを開催する会社「リトルピークス」では、自然体験を中心に、ラフティング、SUP、シャワークライミング、キャンプ、登山ツアー、スノーシューなど、多彩なアクティビティを企画・実施	・コミュニティスクールのコーディネーターが、放課後イベント等を企画 ・のりくら高原ミライズ移住促進プロジェクトチームの企画	・アウトドアツアーを行う会社「だいじ屋」では、キャニオニング、溪流釣り、きのこ狩りキャンプ、山菜採り、スノーシュー、トレッキングなど、季節に応じたイベントを企画・実施	・公民館活動、福祉広場等で幅広い活動 ・移住者による積極的な地域活動が展開
施 設 等	・安曇小中学校体育館、グラウンド ※現在、学校体育館はセキュリティの問題から一般の貸出を中止 ・安曇体育館	・大野川小中学校体育館、グラウンド ・乗鞍体育館 ・ふれあいパーク ・Mt. 乗鞍スキー場 ・いがやレクリエーションランド	・奈川小中学校体育館、グラウンド ・奈川寄合渡体育館 ・奈川木曽路原体育館 ・奈川文化センター夢の森 ・野麦峠スキー場	・四賀小学校体育館、グラウンド ・会田中学校体育館、グラウンド ・四賀体育館 ・信州グリーンローズスタジアム四賀 ・四賀B＆G海洋センター
ク ラ ブ 活 動	・現在、学校登山のクラブ化を検討	・現在、学校登山のクラブ化を検討（大野川小中CSが企画運営） ・乗鞍ジュニアスキークラブは中学生1名、小学生10名いるが、加入人数は減少傾向	・現在、学校登山のクラブ化を検討 ・奈川スキークラブ（レーシング部門とエンジョイ部門あり。5人のクラブ員生がエンジョイ部門に所属）	・絵画教室（松本市地域自治支援交付金採択事業 わくわく縁側サロン） ・ダンススタジオ「ムム」 ・剣道教室
伝 統 芸 能	・以前は各地区に太鼓の活動はあったが、現在は活動が行われていない	・アルプホルン ・神事の舞踊（年2回） ・太鼓セットあり	・奈川獅子（児童生徒全員参加） ・堤太鼓は後継者なく自然消滅	・四賀虚空蔵太鼓
課 題 と 可 能 性	・美術をやりたい生徒がいたが、そもそもの活動がないため諦めた ・ダンスをやりたい生徒は、新島々の駅から電車で市内の教室に通っている（週1回） ・山間地域の中では、比較的、市街地に出やすい環境のため、波田地区のクラブ活動に参加できれば、可能性は広がる	・バスケをやりたい生徒がいて、休日は市街地まで下りてクラブ活動を実施している ・平日は自主的に仲間同士で集まり学校体育館を借りて活動（週2回） ・ダンスが盛ん。月1階程度、プロの講師を呼んでやってみることも検討したい	・イベントや体験活動は、長期休暇等であれば、市街地から人を呼ぶことは可能（合宿できそうな場所あり） ・部活動がなくなれば、何もやらないことを選択する生徒は多いかも ・そのため、7時間目の校内活動として、子どもたちが主体となるサークル活動を行なうなど工夫が必要	・地域指導者を中心に部活動がクラブ化する動きがある ・生徒数が少ないため、多くのクラブはできない ・希望するクラブがなければ、市街地まで送迎する必要がある

令和6年
8月1日から

地区公民館を若者の居場所に 7か所に「フリースペース」を開設



若者の居場所を作ってほしい

公民館は15～20歳の利用が少ない

要望や課題に基づき変革

若者が利用しやすい公民館へ



R5

学習スペースを拡充

- ▶ 中央公民館(Mウイング) … 2倍に増設
- ▶ 松南・四賀・梓川 … 通年利用に
- ・学習の目的に限定して部屋を開放
- ・飲食は原則できない (ただし施設ごとに除外ルールあり)



Mウイングの様子



R6

学習に限定しないフリースペースを開設

- ▶ 庄内・第3・城東・白板・島内・芳川・寿の7か所に新設
- ・学習のほか、会話やボードゲーム、携帯ゲームを楽しむこともできる
- ・飲食が可能、職員など大人が見守りのため常駐

今後、利用状況を見ながら35地区に順次拡大を目指す



令和6年
8月1日から

地区公民館を若者の居場所に 7か所に「フリースペース」を開設

◆開設するフリースペース

公民館	主な対象	部屋	開場時間
庄内地区	小学生以上	1階 視聴覚室	【月・金】 16～20時 / 【土・日・祝】 9～17時
第三地区	中高生	2階 研修室	【月～金】 9～20時 / 【土・日・祝】 9～17時
城 東		3階 講義室	【毎月 第1・3土】 10～17時
白板地区		1階 多目的室	【月(祝除く)】 17～20時 / 【土】 9～17時
島 内		1階 視聴覚室	【毎月 第2土】 13～17時
芳 川		2階 講義室	【水】 15～19時 / 【日】 13～17時
寿		2階 視聴覚室	【水】 15～20時 / 【土】 9～17時

※ いずれの部屋にも机と椅子、Wi-Fi、電源あり

※ 立地状況(学校との距離・若者の人口等)をもとに公民館を選定

※ 昨年度の「公共施設学習スペースアンケート結果」と公民館の利用状況から日時を設定

◆若者が地域とつながる「きっかけづくり」に

◆公民館職員がいない時間帯は、地域の住民組織等が運営・管理

◆大人と「ほど良い距離感」のなかで、「物理的な居場所」だけではない居心地の良い「心の居場所」へ



地域移行検討協議会資料
6. 12. 19
学校教育課

松本市における部活動の地域クラブ活動への移行に係る調査結果について

1 趣旨

部活動の地域クラブ活動への移行に係る制度設計をさらに充実させていくため、児童生徒保護者及び教員を対象に調査を実施しましたので、その結果等について報告するものです。

2 アンケート結果の概要

(1) 目的

部活動の地域クラブ活動への移行が進められる中、スポーツや文化活動を「やってみたい」と考えている子どもたちを応援する制度をさらに整備・推進し、子どもたちの願いや保護者、教職員の思いが前回の調査からどの程度変化しているかを把握し、新しい地域クラブの設立・運営を含めた環境づくりに活かすことを目的とする。

(2) 対象

- ア 小学5・6年生
- イ 小学5・6年生の保護者
- ウ 中学1・2年生
- エ 中学1・2年生の保護者
- オ 中学校教員

(3) 期間

令和6年9月9日から10月20日まで

(4) 方法

オンライン上で回答を求めた

(5) 回答状況

	調査対象者(名)	分析対象者(名)	有効回答率(%)
小学5・6年生	3,574	2,280	63.8
中学1・2年生	3,467	1,130	32.7
小学5・6年生保護者	3,574	1,231	34.4
中学1・2年生保護者	3,467	1,292	37.3
中学校教員	531	331	62.3

注) 保護者へは、お子さん1名につき1回の回答を依頼した。

3 アンケート結果 別冊のとおり

4 今後の予定

- (1) 本協議会でのご意見を踏まえ、定例教育委員会において、前回調査との比較や分析結果を盛り込んだ詳細版を作成し、報告します。
- (2) また、詳細結果については、市ホームページでの公開に加え、校務支援システム（C4th home&school）を通じて、今後、児童生徒の保護者へも共有いたします。

松本市における部活動の地域クラブ活動への移行に
係る調査結果（速報値）

松本市教育委員会
学校教育課

1 目 的

部活動の地域クラブ活動への移行が進められる中、スポーツや文化活動を「やってみたい」と考えている子どもたちを応援する制度をさらに整備・推進し、子どもたちの願いや保護者、教職員の思いが前回の調査からどの程度変化しているかを把握し、新しい地域クラブの設立・運営を含めた環境づくりに活かすことを目的とした。

2 方 法

(1) 調査時期

本調査は、令和 6 (2024) 年 9 月 9 日から 10 月 20 日までの期間で実施された。

(2) 調査対象者および分析対象者

調査対象者は、松本市立の小学校 5・6 年生とその保護者、松本市立の中学校 1・2 年生とその保護者、および松本市内中学校教員であった。中学校教員としては、校長、教頭、教諭、講師、養護教諭、その他教職員を調査対象とした。調査対象者および調査対象者のうち記入漏れや記入ミスのあったものを除く分析対象者を表 1 に示した。

表 1 調査対象者および分析対象者

	調査対象者 (名)	分析対象者 (名)	回答率 (%)
小学 5・6 年生	3,574	2,280	63.8
中学 1・2 年生	3,467	1,130	32.7
小学 5・6 年生保護者	3,574	1,231	34.4
中学 1・2 年生保護者	3,467	1,292	37.3
中学校教職員	531	331	62.3

(3) 手続き

質問紙への回答はオンライン上(生徒児童は各自端末、保護者は Home&School、教職員は C4th)で行われた。

(4) 留意事項

調査結果は小数点第 1 位までの表記となり、合計は必ずしも 100%ではない。

調査項目は、見やすさの観点から簡略化して表記している箇所がある。

項目の上位を表示する場合、4 件法の場合は、項目文を肯定する回答の割合の和の上位を記している。たとえば、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合の和を上位としている。

小学5・6年生を対象とした調査の結果

問1 あなたは、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは、好きですか？

	n	%
1 好き	1239	54.3%
2 どちらかといえば、好き	652	28.6%
3 どちらかといえば、嫌い	288	12.6%
4 嫌い	96	4.2%
無回答	5	0.2%
	2280	100.0%

問2 あなたは、文化活動（楽器演奏、合唱、演劇、美術等）をすることは、好きですか？

	n	%
1 好き	753	33.0%
2 どちらかといえば、好き	826	36.2%
3 どちらかといえば、嫌い	520	22.8%
4 嫌い	174	7.6%
無回答	7	0.3%
	2280	100.0%

問3 中学生になったら、あなたは「平日」にスポーツや文化活動をやりたいですか？
(平日とは月曜日から金曜日の放課後のことです。)

	n	%
1 やりたい	1,691	74.2%
2 やりたくない → へ	578	25.4%
無回答	11	0.5%
	2,280	100.0%

問 4	「平日」に「やってみたい」と思う種目・活動を選んでください。いくつでも構いません。
-----	---

問 4 の分析対象者は 1,689 名

運動系			文化芸術系		
	n	%	n	%	
1 バドミントン	411	24.3%	1 吹奏楽	367	21.7%
2 サッカー	361	21.4%	2 eスポーツ	289	17.1%
3 バasketボール	317	18.8%	3 美術	279	16.5%
4 バレーボール	314	18.6%	4 家庭科(調理・手芸)	260	15.4%
5 卓球	299	17.7%	5 合唱	194	11.5%
6 ダンス	269	15.9%	6 技術・ロボット製作	185	11.0%
7 キャンプ	247	14.6%	7 理科・科学	175	10.4%
8 スキー	235	13.9%	8 茶道	168	9.9%
9 スケート	215	12.7%	9 コンピュータ・情報	163	9.7%
10 水泳	214	12.7%	10 演劇	131	7.8%
11 自然体験	201	11.9%	11 外国語	81	4.8%
12 陸上競技	193	11.4%	12 その他音楽（合唱や吹奏楽以外）	77	4.6%
13 ソフトテニス	191	11.3%	13 書道	76	4.5%
14 自転車	179	10.6%	14 囲碁・将棋	75	4.4%
15 弓道	176	10.4%			
16 登山	130	7.7%			
17 軟式野球	119	7.0%			
18 空手	107	6.3%			
19 剣道	101	6.0%			
20 硬式テニス	96	5.7%			
21 スケートボード	96	5.7%			
22 硬式野球	91	5.4%			
23 クライミング	87	5.2%			
24 ソフトボール	70	4.1%			
25 体操競技	68	4.0%			
26 柔道	64	3.8%			
27 馬術	60	3.6%			
28 新体操	56	3.3%			
29 ゴルフ	56	3.3%			
30 レクリエーションスポーツ	30	1.8%			
31 なぎなた	22	1.3%			
32 パラスポーツ	22	1.3%			
33 ラグビー	15	0.9%			
34 相撲	14	0.8%			
35 エアロビクス	10	0.6%			

問 5	平日に「やってみたい」と思うクラブの活動は、どれくらいの回数であれば参加したいですか？ 今のあなたの希望を教えてください。
-----	---

	n	%
1 週 1 日	128	5.6%
2 週 2 日	470	20.6%
3 週 3 日	571	25.0%
4 週 4 日	238	10.4%
5 毎日	257	11.3%
無回答	616	27.0%
	2,280	100.0%

. 中学校の部活動が「地域移行」すると、令和 8 年度から休日の部活動がなくなります。部活動の「地域移行」についての考えを聞かせてください。

問 6	中学生になったら、あなたは「休日」にスポーツや文化活動をやりたいですか？自分の気持ちに一番近い番号を選んでください。(休日とは、土曜日、日曜日、祝日のことです)
-----	--

	n	%
1 やりたい→問 8	683	30.0%
2 条件が合えば、やりたい。→問 7	998	43.8%
3 やりたくない→終わり	582	25.5%
4 無回答	17	0.7%
	2,280	100.0%

問 7	どんな条件であれば「休日」にスポーツや文化活動をやりたいですか？いくつ選んでも結構です。
-----	--

問 7 の分析対象者は 988 名

	n	%
1 自分にあったレベルであればやりたい。	671	67.9%
2 学校または学校近くの施設ならやってみたい	214	21.7%
3 家の近くならやってみたい	388	39.3%
4 お金がそれほどかからないならやってみたい。	397	40.2%
5 希望する活動時間がかなえられれば、やってみたい。	552	55.9%
6 その他	99	10.0%

問 8	「休日」に「やってみたい」と思う種目・活動を選んでください。いくつでも構いません。
-----	---

問 8 の分析対象者 1,689 名

	運動系	n	%
1	サッカー	357	21.1%
2	バドミントン	340	20.1%
3	バスケットボール	279	16.5%
4	バレーボール	277	16.4%
5	ダンス	245	14.5%
6	卓球	239	14.2%
7	キャンプ	227	13.4%
8	自然体験	227	13.4%
9	スキー	209	12.4%
10	スケート	209	12.4%
11	水泳	193	11.4%
12	弓道	153	9.1%
13	陸上競技	148	8.8%
14	自転車	147	8.7%
15	ソフトテニス	138	8.2%
16	登山	122	7.2%
17	軟式野球	117	6.9%
18	剣道	107	6.3%
19	硬式野球	92	5.4%
20	スケートボード	88	5.2%
21	空手	85	5.0%
22	クライミング	73	4.3%
23	硬式テニス	71	4.2%
24	ソフトボール	61	3.6%
25	体操競技	59	3.5%
26	新体操	58	3.4%
27	ゴルフ	57	3.4%
28	馬術	55	3.3%
29	柔道	51	3.0%
30	レクリエーションスポーツ	25	1.5%
31	なぎなた	22	1.3%
32	パラスポーツ	17	1.0%
33	ラグビー	15	0.9%
34	エアロビクス	10	0.6%
35	相撲	9	0.5%

	文化芸術系	n	%
1	吹奏楽	336	19.9%
2	eスポーツ	285	16.9%
3	美術	234	13.9%
4	家庭科(調理・手芸)	204	12.1%
5	囲碁・将棋	204	12.1%
6	合唱	183	10.8%
7	技術・ロボット製作	170	10.1%
8	茶道	150	8.9%
9	コンピュータ・情報	143	8.5%
10	理科・科学	142	8.4%
11	演劇	109	6.5%
12	その他音楽(合唱や吹奏楽以外)	83	4.9%
13	書道	68	4.0%
14	外国語	64	3.8%

問 9	休日に「やってみたい」と思う種目・活動を選んだ理由について教えてください。いくつ選んでも構いません。
-----	--

問 9 の分析対象者 1,679 名

		n	%
1	記録を伸ばしたいから	332	19.8%
2	技術を伸ばしたいから	343	20.4%
3	大会やコンクールに参加できるから	101	6.0%
4	友人関係が広がるから	168	10.0%
5	これまで努力した経験を生かしたいから	118	7.0%
6	自分の興味のあることだから	387	23.0%
7	体力がつくから	137	8.2%
8	なんとなく	63	3.8%
9	その他	30	1.8%

問10	休日に「やってみたい」と思う種目・活動のできるクラブに、どのようなことを希望しますか。こうしてほしいと思うことを教えてください。いくつ選んでも構いません。
-----	---

問 10 の分析対象者 1,681 名

		n	%
1	どのようなクラブであるのか、資料やインターネットなどで調べてわかるようにしてほしい	301	17.9%
2	楽しむことを大切にしてほしい	980	58.3%
3	勝利を重視した指導が受けられるようにしてほしい	79	4.7%
4	たくさんの試合や合宿を行うようにしてほしい	66	3.9%
5	お楽しみ会やレクリエーションなど、楽しさを大切にしてほしい	37	2.2%
6	教えてくれる人が専門的な技術や能力など、きちんとした資格を持っていてほしい	15	0.9%
7	全国大会や北信越・東海大会など、上位の大会に出場を狙える強いクラブであってほしい	26	1.5%
8	将来、プロになることをイメージした指導が受けられるようにしてほしい	19	1.1%
9	自分のレベルに合った指導が受けられるようにしてほしい	42	2.5%
10	自分なりのペースで進めていくことを尊重してほしい	23	1.4%
11	いじめなどがないようにしてほしい	41	2.4%
12	短い時間での活動にしてほしい	11	0.7%
13	じっくり活動する時間にしてほしい	12	0.7%
14	バスなどの送り迎えがあるようにしてほしい	7	0.4%
15	学校の学習がおろそか（いいかげん）にならない範囲の活動にしてほしい	14	0.8%
16	順位のつく大会やコンクールなどに参加できるようにしてほしい	8	0.5%

問11	休日に「やってみたい」と思うクラブの活動は、どれくらいの回数であれば参加したいですか？ 今のあなたの希望を教えてください。
-----	---

		n	%
1	毎週土曜日	509	30.2%
2	毎週日曜日	147	8.7%
3	1週間のうち、土曜日と日曜日のどちらか1日のみ	497	29.5%
4	1週間のうち、土曜日と日曜日の両日	271	16.1%
5	2週間に1度くらい	209	12.4%
6	1ヶ月に1度くらい	51	3.0%
		1,684	100.0%

問12	どのくらいの時間の活動であれば参加したいですか？ 1回の活動希望時間を教えてください。
-----	---

		n	%
1	1時間未満	131	7.7%
2	1時間以上 2時間未満	701	41.4%
3	2時間以上 3時間未満	549	32.4%
4	3時間以上	312	18.4%
		1,693	100.0%

中学１・２年生を対象とした調査の結果

問１	あなたは、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは、好きですか？
----	---------------------------------------

	n	%
1 好き	662	58.4%
2 どちらかといえば、好き	294	25.9%
3 どちらかといえば、嫌い	129	11.4%
4 嫌い	45	4.0%
無回答	3	0.3%
	1,133	100.0%

問２	あなたは、文化活動（吹奏楽、楽器演奏、合唱、演劇、美術等）をすることは、好きですか？
----	--

	n	%
1 好き	385	34.0%
2 どちらかといえば、好き	464	41.0%
3 どちらかといえば、嫌い	215	19.0%
4 嫌い	65	5.7%
無回答	4	0.4%
	1,133	100.0%

問３	現在、あなたは、学校の部活動や地域のクラブに所属していますか？
----	---------------------------------

	n	%
1 「学校の部活動」のみに所属している	660	58.3%
2 「地域のクラブ」のみに所属している	143	12.6%
3 「学校の部活動」と「地域のクラブ」の両方に所属している	214	18.9%
4 「学校の部活動」「地域のクラブ」のどちらにも所属していない → へ	110	9.7%
無回答	6	0.5%
	1,133	100.0%

問 4	所属しているそれぞれの活動はどのような種目ですか？ 所属していない場合は、空欄で構いません。
-----	--

問 4 の回答者は 354 名です。

運動系クラブ

1	サッカー	65
2	バスケットボール	61
3	ソフトテニス	36
4	硬式野球	30
5	卓球	27
6	バレーボール	19
7	陸上競技	19
8	軟式野球	18
9	バドミントン	15
10	水泳	9
11	空手	9
12	ダンス	8
13	剣道	5
14	新体操	2
15	スキー	2
16	ラグビー	2
17	柔道	2
18	クライミング	1
19	ソフトボール	1
20	硬式テニス	1
21	体操競技	1
	その他	2

文化芸術系クラブ

1	美術	7
2	その他音楽（合唱や吹奏楽以外）	5
3	吹奏楽	4
4	技術・ロボット製作	2
5	書道	2
6	家庭科(調理・手芸)	1
7	コンピュータ・情報	1
	その他	1

中学校の部活動が「地域移行」とすると、令和 8 年度から休日の部活動がなくなります。部活動の「地域移行」についての考えを聞かせてください。現在、地域のクラブに所属している人も答えてください。

問 5	部活動が地域移行したら、あなたは休日のクラブ活動に参加したいですか？
-----	------------------------------------

	n	%
1 参加したい	378	33.4%
2 どちらかといえば、参加したい	263	23.2%
3 どちらかといえば、参加したくない →問 8 へ	262	23.1%
4 参加したくない →問 8 へ	213	18.8%
無回答	17	1.5%
	1,133	100.0%

問 6	問 5 で 1 または 2 のいずれかに回答した方にお尋ねします。 どのようなクラブ活動に取り組みたいですか？（複数回答可）
-----	---

問 6 の回答者は 641 名です。

運動系		n	%	文化芸術系		n	%
1	バスケットボール	118	18.4%	1	吹奏楽	92	14.4%
2	サッカー	98	15.3%	2	合唱	39	6.1%
3	バレーボール	86	13.4%	3	美術	38	5.9%
4	ソフトテニス	79	12.3%	4	eスポーツ	38	5.9%
5	バドミントン	74	11.5%	5	茶道	25	3.9%
6	卓球	55	8.6%	6	コンピュータ・情報	23	3.6%
7	陸上競技	46	7.2%	7	技術・ロボット製作	23	3.6%
8	軟式野球	44	6.9%	8	その他音楽（合唱や吹奏楽以外）	22	3.4%
9	硬式野球	44	6.9%	9	書道	21	3.3%
10	弓道	28	4.4%	10	演劇	15	2.3%
11	剣道	23	3.6%	11	家庭科(調理・手芸)	14	2.2%
12	軟式テニス	21	3.3%	12	理科・科学	13	2.0%
13	硬式テニス	21	3.3%	13	外国語	7	1.1%
14	水泳	17	2.7%	14	囲碁・将棋	6	0.9%
15	スケート	17	2.7%		その他	30	4.7%
16	キャンプ自然体験	17	2.7%				
17	スキー	16	2.5%				
18	自転車	14	2.2%				
19	空手	12	1.9%				
20	ソフトボール	8	1.2%				
21	登山	8	1.2%				
22	柔道	7	1.1%				
23	体操競技	7	1.1%				
24	新体操	7	1.1%				
25	ダンス	7	1.1%				
26	なぎなた	6	0.9%				
27	スケートボード	6	0.9%				
28	クライミング	5	0.8%				
29	馬術	5	0.8%				
30	ラグビー	4	0.6%				
31	相撲	3	0.5%				
32	ゴルフ	3	0.5%				
33	エアロビクス	2	0.3%				
34	パラスポーツ	2	0.3%				
35	レクリエーションスポーツ	2	0.3%				

問 7	地域のクラブに自分が在籍する場合、心配なことや困りそうなことはありますか？ あなたの考えにあてはまるものを選んでください。(複数回答可)
-----	---

	n	%
1 希望する競技レベルや技能水準の指導を受けられるクラブが見つかるか。	121	18.9%
2 指導者の指導方法が、厳しすぎたり、高圧的・威圧的など、適切なものでない可能性があること	110	17.2%
3 「平日」と「休日」で指導者が変わる事	102	15.9%
4 休日に心と体をリフレッシュすることができるか	46	7.2%
5 新しい仲間と関係を築くことができるか	44	6.9%
6 どのくらいの費用(月謝)が掛かる	43	6.7%
7 学校での学習に支障が出ないか	35	5.5%
8 家から活動場所まで通うこと(徒歩、自転車、車での送迎)ができるか	30	4.7%
9 部活動の仲間と、新しい活動団体の仲間のどちらと一緒に大会やコンクールに出場すればよいか困りそう	23	3.6%

小学5・6年生保護者を対象とした調査の結果

問 1	現在、あなたのお子さんが所属している地域クラブはありますか？ なお、クラブは運動やスポーツだけでなく、ピアノや書道などの習い事を含めます。ただし、学習塾は除きます。
-----	--

	n	%
1 地域の「スポーツクラブのみ」に所属している	485	39.4%
2 地域の「文化クラブのみ」に所属している	125	10.2%
3 地域の「スポーツクラブ」と「文化クラブ」の両方に所属している	128	10.4%
4 地域の「スポーツクラブ」や「文化クラブ」には所属していない→ へ	479	38.9%
無回答	14	1.1%
	1,231	100.0%

問 2	問 1 で、1、2、3 のいずれかに回答した方にお尋ねします。 お子さんが所属するクラブに支払っている月謝はどの程度ですか？ クラブを掛け持ちして所属している場合は、最も高いクラブの月謝について回答してください。年間または半年ごとでお支払いの方は、月平均でお答えください。
-----	--

金額	0	~500	~1,000	~2,000	~3,000	~4,000	~5,000	~6,000
人数	8	6	25	18	82	69	67	72

金額	~7,000	~8,000	~9,000	~10,000	~11,000	~12,000	~13,000	~14,000
人数	59	77	44	35	8	23	12	4

金額	~15,000	~16,000	~17,000	~18,000	~19,000	~20,000	~21,000	~22,000
人数	9	5	2	3	1	3	0	2

金額	~23,000	~24,000	~25,000	~30,000	~40,000	総計
人数	0	1	4	3	2	347

最低	0	平均	6,265
最高	40,000	中央値	5,000

問 3	月謝以外に支払っている年間の費用負担（例：光熱費、大会・コンクール参加代、遠征代などの諸経費）は、どの程度ですか？
-----	---

金額	0	～ 1000	～ 2,000	～ 3,000	～ 4,000	～ 5,000	～ 6,000	～ 7,000
人数	104	22	20	30	8	46	17	7
金額	～ 8,000	～ 9,000	～ 10,000	～ 11,000	～ 12,000	～ 13,000	～ 14,000	～ 15,000
人数	13	3	87	2	4	0	2	24
金額	～ 16,000	～ 17,000	～ 18,000	～ 19,000	～ 20,000	～ 30,000	～ 40,000	～ 50,000
人数	0	1	4	0	74	62	25	40
金額	～ 60,000	～ 70,000	～ 80,000	～ 90,000	～ 100,000	～ 200,000	～ 300,000	～ 400,000
人数	11	6	3	0	24	17	4	0
金額	～ 500,000	～ 600,000	～ 700,000	～ 800,000	総計			
人数	2	2	0	2	666			

最低	0	平均	29,760
最高	800,000	中央値	10,000

・中学校の部活動が「地域移行」すると、令和 8 年度から休日の部活動がなくなります。部活動の「地域移行」について考えを聞かせてください。現在、地域のクラブに所属している人も答えてください。

問 4	あなたのお子さんが、休日に地域が運営するスポーツや文化の活動を行うことを想定し、質問にご回答ください。どのような活動であれば、あなたのお子さんは休日のスポーツや文化の活動をしたいと考えますか？（複数回答可）
-----	---

問 4 の回答者は 1,192 名

	n	%
1 参加するかどうかを子どもが決められる活動	668	56.0%
2 子どもが活動日・時間を柔軟に決められる活動	501	42.0%
3 子どもの技能に合わせて教えてもらえる活動	649	54.4%
4 子どものペースで進めてもらえる活動	384	32.2%
5 ていねいに教えてもらえる活動	523	43.9%
6 大会やコンクールへの参加を選択できる活動	501	42.0%
7 活動を楽しむことを大切にしたいレクリエーション志向の活動	260	21.8%
8 専門の指導者に教えてもらえる活動	658	55.2%

問 5	あなたのお子さんが、休日に地域が運営するスポーツや文化の活動を行うことを想定した場合、月謝はいくらまでであれば許容できますか？
-----	---

金額	0	~500	~1,000	~2,000	~3,000	~4,000	~5,000	~6,000
人数	17	4	28	100	232	56	433	44
金額	~7,000	~8,000	~9,000	~10,000	~15,000	~20,000	~25,000	~30,000
人数	48	58	1	118	12	7	2	2
金額	30,001~	総計						
人数	2	1,164						

最低	0	平均	5,210
最高	50,000	中央値	5,000

問 6	平日の部活動はなくなり、地域クラブで活動するようになったとき、心配なことや不安なことはありますか？ 今のあなたの考えを選んでください。（複数回答可）
-----	--

問 6 の回答者は 1,187 名

	n	%
1 希望する競技レベルや技能水準の指導を受けられるクラブが見つかるか心配	489	41.2%
2 「平日」と「休日」で指導者が変わる事	365	30.7%
3 指導者の指導方法が、厳しすぎたり、高圧的・威圧的など、適切なものでない可能性があること	469	39.5%
4 部活動の仲間と、新しい活動団体の仲間のどちらと一緒に大会やコンクールに出場すればよいか困りそう	302	25.4%
5 新しい仲間と関係を築くことができるか心配	247	20.8%
6 学校での学習に支障がでないか心配	199	16.8%
7 どのくらいの費用（月謝）が掛かるか心配	593	50.0%
8 家から活動場所まで送迎できるか	961	81.0%
9 子どもが、休日に心と体をリフレッシュすることができるか	342	28.8%

中学１・２年生保護者を対象とした調査の結果

問 1	現在、あなたのお子さんは、学校の部活動や地域のクラブに所属していますか？ なお、クラブは運動やスポーツだけでなく、ピアノや書道などの習い事を含めます。ただし、学習塾は除きます。
-----	---

	n	%
1 「学校の部活動」のみに所属している → へ	659	51.0%
2 「地域のクラブ」のみに所属している	148	11.5%
3 「学校の部活動」と「地域のクラブ」の両方に所属している	384	29.7%
4 「学校の部活動」「地域のクラブ」のどちらにも所属していない → へ	97	7.5%
無回答	4	0.3%
	1,292	100.0%

問 2	問 1 で、2、3 のいずれかに回答した方にお尋ねします。 お子さんが所属するクラブに支払っている月謝はどの程度ですか？ クラブを掛け持ちして所属している場合は、最も高いクラブの月謝について回答してください。年間または半年ごとでお支払いの方は、月平均でお答えください。
-----	--

金額	0	～1,000	～2,000	～3,000	～4,000	～5,000	～6,000	～7,000
人数	17	46	50	38	56	44	45	30
金額	～8,000	～9,000	～10,000	～11,000	～12,000	～13,000	～14,000	～15,000
人数	49	14	43	3	22	7	7	6
金額	～16,000	～17,000	～18,000	～19,000	～20,000	～30,000	～40,000	
人数	1	2	0	1	6	6	1	494
最低	0	平均	6,148					
最高	40,000	中央値	5,000					

問 3	月謝以外に支払っている年間の費用負担（例：光熱費、大会・コンクール参加代、遠征代などの諸経費）は、どの程度ですか？
-----	---

金額	0	～1,000	～2,000	～3,000	～4,000	～5,000	～6,000	～7,000
人数	69	17	17	12	8	34	4	1
金額	～8,000	～9,000	～10,000	～15,000	～20,000	～25,000	～30,000	～40,000
人数	9	0	43	16	44	4	30	10
金額	～50,000	～60,000	～70,000	～80,000	～90,000	～100,000		
人数	45	3	4	5	2	73	450	

最低	0	平均	30,895
最高	100,000	中央値	15,000

・中学校の部活動が「地域移行」とすると、令和８年度から休日の部活動が学校の活動でなくなります。部活動の「地域移行」について考えを聞かせてください。現在、地域のクラブに所属している人も答えてください。

問 4	あなたのお子さんが、 <u>休日</u> にスポーツや文化の活動を行うことを想定し、質問にご回答ください。どのような活動であれば、あなたのお子さんは休日のスポーツや文化の活動をしたいと考えますか？（複数回答可）
-----	---

問 4 の回答者は 1,266 名

	n	%
1 参加するかどうかを子どもが決められる活動	668	52.8%
2 子どもが活動日・時間を柔軟に決められる活動	455	35.9%
3 子どもの技能に合わせて教えてもらえる活動	596	47.1%
4 子どものペースで進めてもらえる活動	322	25.4%
5 丁寧に教えてもらえる活動	583	46.1%
6 大会やコンクールへの参加を選択できる活動	516	40.8%
7 活動を楽しむことを大切にしたいレクリエーション志向の活動	225	17.8%
8 専門の指導者に教えてもらえる活動	729	57.6%
9 その他（上記以外の理由があれば、記入してください：自由記述）	35	2.8%
無回答	26	2.1%

問 5	あなたのお子さんが、 <u>休日</u> に地域が運営するスポーツや文化の活動を行うことを想定した場合、月謝はいくらまでであれば許容できますか？
-----	--

金額	0	～ 1,000	～ 2,000	～ 3,000	～ 4,000	～ 5,000	～ 6,000	～ 7,000
人数	18	100	126	301	53	380	36	11

金額	～ 8,000	～ 9,000	～ 10,000	～ 15,000	～ 20,000	～ 30,000	計
人数	47	2	100	9	11	1	1,195

平均	4,518	中央値	4,000
----	-------	-----	-------

問 6	休日の部活動はなくなり、地域クラブで活動するようになったとき、心配なことや不安なことはありますか？ 今のあなたの考えを選んでください。(複数回答可)
-----	--

問 6 の回答者は 1,215 名

	n	%
1 希望する競技レベルや技能水準の指導を受けられるクラブが見つかるか心配	405	33.3%
2 「平日」と「休日」で指導者が変わることに	459	37.8%
3 指導者の指導方法が、厳しすぎたり、高圧的・威圧的など、適切なものでない可能性があること	469	38.6%
4 部活動の仲間と、新しい活動団体の仲間のどちらと一緒に大会やコンクールに出場すればよいか困りそう	362	29.8%
5 新しい仲間と関係を築くことができるか心配	222	18.3%
6 学校での学習に支障がでないか心配	230	18.9%
7 どのくらいの費用（月謝）が掛かるか心配	592	48.7%
8 家から活動場所まで送迎できるか	944	77.7%
9 子どもが、休日に心と体をリフレッシュすることができるか	341	28.1%
無回答	77	6.3%

中学校教職員を対象とした調査の結果

問 1 現在、あなたは部活動の顧問をしていますか？

1 運動系部活動の顧問をしている	149
2 文化系部活動の顧問をしている	45
3 運動系部活動と文化系部活動を掛け持ちした顧問をしている	2
4 担当(事務手続き、引率)になっている、または顧問をしていない	130

問 2 休日の部活動指導を負担と感じますか。

	n	%
1 負担である	155	49.4%
2 どちらかといえば負担である	88	28.0%
3それほど負担ではない	48	15.3%
4 負担ではない	23	7.3%
	314	100.0%

問 3 中学校の部活動が「地域移行」すると令和7年度末までに休日の部活動がなくなり、地域移行が想定されています。あなたは、休日の地域のスポーツ・文化芸術活動の指導を希望しますか？

	n	%
1 希望する	35	10.6%
2 どちらかといえば、希望する	37	11.2%
3 どちらかといえば、希望しない	68	20.5%
4 希望しない	188	56.8%
無回答	3	0.9%
	331	100.0%

問 4 休日の協会および連盟主催の大会(中体連は除く)等の運営について、審判員等の運営者として協力することは可能ですか？

	n	%
1 協力できる	21	6.3%
2 都合のつく範囲で協力したい	72	21.8%
3 できれば協力したくない	76	23.0%
4 協力できない	159	48.0%
無回答	3	0.9%
	331	100.0%

問 5	大会運営に協力する場合、どのくらいの報酬を希望しますか？
-----	------------------------------

	n	%
1 1 時間800円以上	8	2.4%
2 1 時間1,000円以上	70	21.1%
3 1 時間1,200円以上	37	11.2%
4 1 時間1,500円以上	83	25.1%
5 報酬にはこだわらず、協力したい	18	5.4%
6 報酬があっても協力できない	112	33.8%
無回答	3	0.9%
	331	100.0%

問 6	平日の部活動指導を負担と感じますか。
-----	--------------------

	n	%
1 負担である	163	49.2%
2 どちらかといえば負担である	89	26.9%
3それほど負担ではない	47	14.2%
4 負担ではない	21	6.3%
無回答	11	3.3%
	331	100.0%

問 7	令和 8 年度以降、平日の部活動についても地域移行が想定されています。あなたは、平日の勤務時間外で行われる地域のスポーツ・文化芸術活動の指導を希望しますか？
-----	--

	n	%
1 希望する	27	8.2%
2 どちらかといえば、希望する	31	9.4%
3 どちらかといえば、希望しない	76	23.0%
4 希望しない	194	58.6%
無回答	3	0.9%
総計	331	100.0%

問 8	現在、あなたは協会等による指導者資格を所持していますか？（日本スポーツ協会、日本サッカー協会による指導者ライセンスなど）
-----	--

1 所持している	18
2 所持していないが、今後取得する予定。	39
無回答(なし)	274
	331

問 9	指導者が自身の専門性を高めるために、今後受講したい研修について選んでください。（複数回答可）
-----	--

1 種目に応じた技能や体力の高め方に関する研修	17
2 コーチングに関する研修	31
3 怪我予防に関する研修	16
4 学校教育での子どもの実態に関する研修	7
5 生徒指導に関する研修	8
6 いじめや不登校に関する研修	6
7 栄養に関する研修	7
8 メンタルトレーニングに関する研修	22
9 睡眠に関する研修	5
10 メンタルヘルス（心の健康）に関する研修	8
11 ICTを用いた指導方法に関する研修	14
12 審判や審査など運営に関する研修	10
13 子どもとの接し方に関する研修	8
14 体罰など不適切な指導事例を学ぶ研修	6
15 その他	3